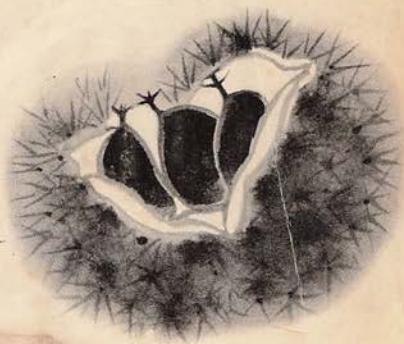


山
女

昭和45年11月 第2号
関東氷上郷友会



文
範



6484

6-0823

10月

渡辺紙工業株式会社

取締役会長 渡辺 泰造 取締役社長 渡辺 金三

本 社	大阪市城東区蒲生町5丁目53番地
本社事務所	大阪市北区芝田町112番地〈北梅田ビル〉 ■ TEL 372-6814
東京支店 工場	東京都足立区中央本町5丁目22番12号 ■ TEL 887-6711~5
東京支店営業所	東京都台東区柳橋2丁目15番4号〈関根ビル〉 ■ TEL 861-2331~6
名古屋支店工場	名古屋市西区又穂町3丁目13番地 ■ TEL 521-8111~5
大阪支店 工場	大阪市城東区蒲生町5丁目53番地 ■ TEL 939-1281~6
九州支店 工場	福岡市堅粕日ノ出町4丁目1番地 ■ TEL 41-4237~9

渡辺製袋株式会社

取締役会長 渡辺 泰造 取締役社長 渡辺 金三

本 社	大阪市城東区蒲生町5丁目53番地
東京支店	東京都台東区柳橋2丁目15番4号〈関根ビル〉 TEL (861) 2331~6
大阪支店	大阪市城東区蒲生町5丁目53番地 TEL (939) 1281~6
藤岡工場	栃木県下都賀郡藤岡町内町493番地 TEL (028262) 3321~2
兵庫工場	兵庫県加古郡稲美町蛸草1438-1番地 TEL (0794291) 257・401

山 ざ る

第二号



目次

第二号の刊行に当って 関東氷上郷友会会長 石橋治郎八…2
 関東氷上郷友会の沿革 …3

●随想—会員欄

愛称「丹波の黒中」 衆議院議員 有田 喜一…4

「山ざる」に寄せて 氷上郡町村長会会長 芦田 三次…7

はかない夢 伴仲 信次…8

ご自慢ばなし 安達 恭二…9

山猿と有権者 佐々木盛雄…9

生きがいある仕事を！ 木村つた江…11

航空安全祈願祭 高見 正夫…12

丹波の開発へ 西山敬次郎…13

郷友会とわたし 安藤 秀夫…14

セックス礼讃 堀川 万次…14

精一杯、働く 須藤 清…16

お互いの知恵を持ち寄ろう 松山 幸逸…17

郷土便り——かわるふるさと 芦田 雄二…18

日本の性豪

春の懇親会

秋の懇親会

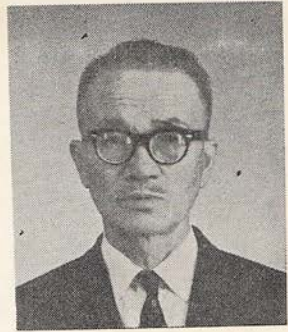
大槻さん近く—大槻喬氏略歴

郷里の小、中学校へニュースの贈り物

愛郷の心—秋山徳三郎追悼録より

関東氷上郷友会会員名簿

東海大学部…23 消息…24 訃報…24 関東氷上郷友会々則…50
 役員…51 年度会費納入者名…51 寄附金納入者名…51 編集後記…52



第二号の刊行に当って

関東氷上郷友会会長

石 橋 治 郎 八

会誌「山ざる」を発刊したのが昭和四十一年六月でありますから、早いもので既に四年有半の歳月が流れました。

この間、たびたび会員の集合を催しまして親睦をはかる一方では、本誌を通じて会員の動静や郷土の近況を伝えながら、会員の勧誘に努めてまいりました。

しかし、本誌の内容としては、不備の点が多かったことは否めません。

発刊当時は連絡不十分のために、名簿に掲載出来なかった方も多く、また返信を頂いても知りたい事項が洩れていたりなどして、会誌としての役割を充分に果しえなかったことは残念に思っております。

そこで新しい会員のご紹介やら、過去四カ年間に生じた会員の異動をお伝えする外、会誌としての体裁も整えるために、第二号を刊行することにいたしました。

つきましては、この機会に改めて本誌を充実した内容とするために、各位が進んでご協力下さるようお願い致します。



関東氷上郷友会の沿革

本会の歴史は明治二十九年（一八八六年）十一月二日、東京神田の料亭において創立の発会式が行なわれたといわれる。

当時、東京大学の学生であった安藤広太郎、岡田昌氏らの奔走によって結成の準備が進められ、会長には旧柏原藩主織田信親子爵、副会長には田健次郎男爵が就任され、東京における郷土出身者の親睦と友情を深めると共に、郷里氷上郡の開発発展に寄与することを目的としたものであった。

以来七十余年の間、幾多の変遷を経ながら、ともかくも、今日に至ったことは、本会の発展、維持に献身的に協力して下さった先輩各位の郷土愛のたまものであった。特にその数多くの先輩のうちでも、井上雅二、小谷哲、矢本平蔵、堀川萬次氏らの名を逸することは出来ない。

日本が支那事変を経て、太平洋戦争に突入して、昭和二十年の敗戦を迎えるまでは、時局柄、郷友あいっとう機会も、漸次少なくなっていた事はやむを得

なかつたが、戦後の混乱が次第に拾収され、日本の復興と、経済の成長、平和な社会秩序の回復されるに伴って、郷土愛精神も次第によみがえって来た情勢に対処して、本会の再建に東奔西走してくれたのが、現会長、石橋治郎八氏をはじめ堀川萬次君を中心とする人々であった。

そして、昭和二十八年一月二十八日、東京新橋駅構内の「日本食堂」で、戦後第一回の「東京氷上郷友会」が開催され、百名を超える郷友が集い、戦中、戦後の混乱期を生き抜いた人々が、久闊を叙し、ふるさとを語る歓談の一夕を持ち、わが郷友会は新しい発展を約束されたのであった。

以来、田会長（昭和五年没）のあと久しく空席であった会長の椅子は、織田信大子爵、安藤広太郎氏と引きつがれ、さらに戦後は石橋治郎八現会長を中心に、現役員諸氏（別記）の協力を得て今日の隆盛を見るに至った。

（係より）本会の歴史については、資料不足のため、甚だ貧弱な沿革しか記載し得ませんので、郷友の中に、本会の沿革について、資料や御記憶のある方は、是非ご面倒でも御教示を賜わりたく、後日、より正確な記録として、保存いたしたく存じますので、よろしく願ひいたします。）

随 想

● 会員欄



愛称「丹波の黒牛」

衆議院議員

有 田 喜 一

「ふるさととは遠きにありて思うもの」という言葉がある。
幼き頃より暖かく育んでくれたなつかしい山や川、人情豊
かな人々のなつかしい顔、それぞれの人によって思い出は
異なるだろうが、永く、又遠く離れていればいるだけなつか
しく思うものである。

「兎追いし彼の山」の童謡から「誰れか故郷を思はざる」

など望郷にからむ歌は数限り無くあるのもうなずける。

かつて私は文部大臣のとき、甲子園での夏の高校野球大
会の始球式に出た。

そうして試合をみてみると、夏の焼つくカンカンに照り
つける中、懸命に母校の応援をやり、郷里の学校の応援を
やっている。

又、海外に出た人がよくいう言葉に外国で見る日章旗は
感激一入だということを聞く。

郷土愛とか、母校愛とか、祖国愛というものは人間が本
質的に抱いているものと思う。

まして、幼きときから育んでくれたふる里を思はぬもの
はないであらう。

私は郷里のみなさんの選良として、国会に送り出されているので常に郷里と東京の間を往復しているし、ふるさとの移り変わりや、なつかしい方々とも比較的多くの接触があり、又郷里の開発発展のため、色々と協力しているのです、たまにしか帰郷出来ぬ方とはニュアンスが違うと思うが、それでも少し帰郷の機会が絶えると、懐郷の念一入なるものを覚えるのである。

私の国会におけるニックネームは、丹波の黒牛^{クマ}である。牛のようにねばり強く、ぬうぼうとしていて、しかも頑丈で、よくものを噛みしめるといふ処からそういったアダ名をもらったようだ。

私はむしろこのニックネームを誇りに思い有難くいただいている。

私がこうした愛称をもらい、国のため、郷里のためお役に立つことが出来るのも、これ全く幼き頃から育んでくれた丹波の環境と、みなさんのたゆまざるご支援ご鞭撻の賜と感激に堪えない次第である。

ご承知の通り私は防衛庁長官として、最近まで一年有余の間、重大なる我が国の防衛の最高の位にあった、丁度就

任後直ちに臨時国会が開かれ、それから予算の編成、続いて二百数十日に亘る通常国会の開会とずい分多忙な毎日を送った。

文部大臣のときもそうであったが、防衛庁長官も全く予期せざる不慣れなポストに就任した訳である。

しかも国会審議では、防衛問題はいつも野党と真向から対立、手ぐすねひいて迫ってくる。卑しくも国民を代表する最高機関たる国会においてスタンドプレーや、ハッタリはいえない。自分自身が納得し、信念の上にたつものでなくてはならない。

なにくそやってやるぞ、大いにハッスルし猛勉強したものである。

お蔭で歴代長官が散々苦勞して成し遂げられなかった陸上自衛隊十八万人体制達成のための、防衛二法の成立を始め、三次防の柱ともいふべき最新精鋭の新戦闘機F4Eのライセンス国産化や、基地問題の解決等々、数知れぬほど諸々の案件を片端から片付け、又長期展望の上に立って四十七年度から始まる四次防の計画の方向付や沖縄返還後の防衛計画等々着々とエネルギーに成し遂げた。殊にな

によりも嬉しかったのは、私の在任中に国民に防衛意識の向上がめだつて滲透していったことである。

これらのことを成し遂げられたのも一にかかつて、丹波の黒牛の如く、辛抱強く着実に一步一步と進んだからに他ならないし、新謂丹波魂の発露ともいえるものではないかと思う。

大臣という仕事はずい分激職である。

勿論その時々的情勢によって比較的暇な大臣もあるだろうが、私のときの防衛庁長官は既に述べたように防衛二法という重要法案を抱えていたし、又、沖繩問題をはじめ一九七〇年の安保問題を控えていたので、ずい分と忙しい毎日であった。

そのため殆ど帰郷の暇をみつけることが出来なかったのであるが、地元のみなさんから色んな陳情のついでに、郷里の様子をおききしたり、従つて郷里の方々にも東京でずい分と出合っているのに、それでも郷里のことが脳裡から離れなかったのを覚えている。

私のように常に郷里の方々と接触しているものでも帰れないとなると、やはり矢も楯もたまらなくなるものであ

る。ふる里とは畢竟するに心の支えであり、父母の慈愛に似たものであり、又、今日の私を育ててくれた聖地であると思う。

特に私はなんとしても郷土の開発発展を願う気持で一杯である。

「誰れよりも誰れよりも郷里を愛す」

である。私が政治を志したのも、国のため郷里のために尽したいとの念願からである。郷里を離れている者で誰れしも自分の郷里の発展を祈らぬものはないと思う。

「山ざる」会員のみなさん、それぞれの人生、それぞれの立場は違ふだろうが、ふる里を思う心は一致している。お互いの親睦をはかり、明日のふる里を考え、将来の日本を考えて大いに力を併せて発展のため頑張ろうではないか。



「山ざる」に寄せて

氷上郡町村長会会長

芦田 三次

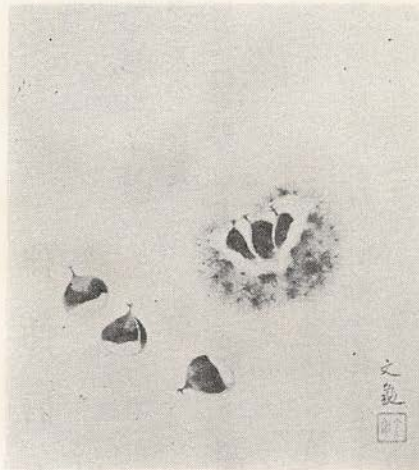
万国博の日本開催は史上空前といわれる入場者数を記録し、数々の話題を残して、大成功裡に終わりました。

私共の近畿地方は、直接の開催地元でもありませんし、力のいれ方もひとしおでしたが、おかげでこの「世紀の祭典」にふさわしい、全国的なムードが盛りあがったように思われます。

この万国博には郷土丹波の「デカンショ節」の踊りが出場して大かつさいを博しました。

文字どおり「山家のサル」が「花の万博でシバイ？」したわけであります。

このデカンショ節にうたわれた「丹波篠山山家の猿が、花のお江戸で芝居する——」の歌詞の「山ざる」が、お江戸へ行った当時は、東京まで随分道のりがあり、遠いところ



常岡文亀画伯Ⅱ表紙を寄せられた常岡画伯は明治三十一年柏原町に生れ、東京美術学校日本画科を卒業、結城素明先生に師事、母校に迎えられ東京美術学校教授となる。その後文展審査員、大日美術院同人、日展委嘱等日本画壇の重鎮として今日に及び、郷土出身画家の大御所である。

同画伯は、現在まで、帝展に「鶏頭花」及び「棕櫚」を出品、それぞれ特選となり、また「カンナ」は政府買上げの榮譽を受けた。さらに外務省より依頼され、シンガポール総領事館をはじめ在外公館用の作品を制作、世界的に知られている画伯である。

ろであつたに違いありません。ところが新幹線や高速道路が走りはじめてから、すっかり事情が變つてしまいました。私は近頃、仕事の関係で、月に一、二回は上京する用件が出来て、出張しますが、つくづく東京も近くなつたなァ——と感じさせられます。上京するにしても殆ど日帰りか、一泊程度で、朝出発しその日の晩には楽々と丹波まで帰つてこられるようになり、従つて在京の皆さんとの距離も、そう遠くないことになりました。

氷上郡においても各町の間が、随分近く感じられるようになりました。自動車の普及と道路整備が進んできたことが大きく影響していますが、何よりも社会全体が非常に早いスピードで進展していることです。この激動する新らしい時代に遅れないためには、各町が力を合せて広域行政を進めていかなければならなくなりました。

昨年は各町の教育委員会を合併、郡一本に統合いたしました。が、本年は更にし尿処理場の増設、丹波地方文化会館の建設など、当面する具体的なものから実現をはかりますが、今計画されております舞鶴より伊丹空港を結ぶ、近畿縦貫高速自動車道が、早急に着工の運びになるよう、全力

をあげ努力いたしたいと考えております。

距離の近くなつた在京の皆さんから、新しい情報と指導を十分にうけ、私達郷土にあるものが協力し、へき地と過疎のなやみから脱却し、よき郷土づくりのために、努力したいと念願しております。

はかない夢

伴 伸 信 次

くに出てから十五年

今ちや東京で大社長

と歌いたい処だが、植木等の唄うようにそう簡単には参らない。

郷里を出てからやがて半世紀。この半世紀を建築一筋に生きて来たが、自分ながら会心の作と自負出来る作品は数少ない。

郷里の地名を冠して、いうなれば背水の陣を張つての精

進だが微力如何んせん。日暮れて道遠しの感ある此の頃ではある。

しかし五十年の体験は又貴重なものである。希望を持つてうまずに精進してゆこうと思う。

(春日建設株式会社)

ご自慢ばなし

安達恭二

生れた村の北田井から小学校まで往復一里半(？)、雨の日も雪の日も通い続けて六年間、卒業の時の皆勤賞は男では自分一人、女の人も一人だった。そのお蔭か今でも足が達者で、ゴルフに出てもスタミナでは若い人に負けない。

柏原中学の入試発表には、亡き父親と一諸に見に行き、後の方から見て行ってナイナイと繰返した所、トップに続いて二番でパスしていて大喜びをしたことだった。

今ではこれらの事柄が、小学校、幼稚園へ通う男の孫達へのおじいちゃんの自慢話である。

(横浜野沢屋社長)

山猿と有権者

佐々木盛雄

私の生れたところは、今は春日町に編入されているが、それまで大路村と呼ばれていた。黒井駅まで二里の道を、自転車のパダルを踏んで出て、そこから汽車で柏原中学に五年間通った。黒井へ出る時は、道が下り気味であつたので、大してパダルに力を入れなくても、車は飛ぶように走つたが、大路への帰り道は上り気味であつたし、それに疲れ切つて帰ってくるせいもあつて、パダルを漕ぐのに汗だくになって苦労したものである。

それに、当時は電池のヘッド・ライトなんかを使う者は誰もなく、ローソクを立てたカンテラのようなものをハンドルの下にくつつけて夜道を走るのだから、暴風雨の時などは忽ち灯が消えてしまつて、なんども田圃や溝の中に転落して、泥だらけになつた。また大雪の降りしきる朝など

は、自転車に乗れないので、素足にわらじをはき、提灯をぶら下げて、道中まことに難行苦行をしたものである。しかし今にして考えれば、あれもこれも、みな懐しい思い出ばかりである。

中学を出るまで約二十年間、ふる里で育ったといっても、毎日柏原へ通学する以外には、隣村にすら出かけることもなかったので、郡内の地理などはさっぱり知らなかった。ところが代議士に出て、いくたびか選挙をやるようになってからは、氷上郡内どころか丹波、但馬なら、どんな小さな部落だって知らないところはないし、そこに住む同志の名前や、顔もすぐ思い出せるようになった。

終戦後はじめての選挙の時だったと思うが、ガソリン不足のために木炭を焚いたトラックに乗って、多紀郡の一番山深い草山村に出かけた時、運動員が蜜声をあげて連呼していると、遠くの峯の頂上でしきりに手をふっている者がある。こんな僻地にまで熱心な支持者がいて、声援してくるのかと思うと、眼がしらが熱くなる思いがする。

ところが、双眼鏡をのぞきこんでいた運動員の一人が、急に噴きだしたのである。「先生、あれは有権者ではあり

ません」といって、腹をかかえて笑いこけんばかりである。そして次に双眼鏡をのぞいた青年は、同じように抱腹絶倒しながら「あれは猿ですよ」といった。

たちまち車上はてんやわんやの大騒ぎとなり、車を停めて運動員は眼鏡を奪いあつたが、さて私の番がきてよく見ると、岩山の突端にボス猿のようなのがいて、そのまわりを数匹の猿が飛び交っている。それがわれわれの肉眼には、木こりか何かの「有権者」と見えたのである。

このあたりは「多紀アルプス」と呼ばれる険しい連山で、今でも野猿の大群が棲息していて、時々木こりが木の枝にかけておいた弁当をさらって逃げたり、里に下りてきて民家にはいりこんで、鍋のフタをとってご飯を食い荒したりするそうである。

こんど氷上郷友会の有志の方々の手によって機関誌が発刊の運びとなったが、その誌名が「山ざる」とは、誰がつけられた名前かは知らぬが、丹波の風物をいい得て妙である。

その後二十年の歳月が流れた。
私を支持してくれた多くの同志もこの世を去った。そし

て私もまたすでに六十の坂を越して、そぞろ故山を思う昨今であるが、あの時しきりに手をふってくれたボス猿は今も健在であろうか。

(著述業)

生きがいある仕事を!

木村つた江

私が此の会に恩師、光山秀子様のおさそいを受けて、始めて出席いたしましたのが新橋駅前の日本食食で「ボタンなべ」をつつきながらの、よき時代でした。その後十有余年の間に数回出席はいたしました、何時も期待はづれの空しい気持で帰宅しなければならなかったのは私一人だったかしら。心のふれ合いが少しも感じられない、何時もお骨折り下さる会長様には申し訳ないと思いつつ何かが欠けているのではないか。それともみんなが「よそゆき」の顔のままで会が終ってしまうせいかしら。丹波の山さるの集りらしく心おきなく親しめる会に発展してほしい。そんな欲

張ったことを考え希望している者でございます。

「女のくせに」という言葉が大嫌いな私、現在、大学三年の息子と三人の外孫を持つ若いおばあさんですが(当年五十三歳)おばあさんの座に落ちついてなぞいたくありません。何か「生きがい」を感じるような仕事をしたい、と昨年あたりから大分世帯ボケした頭をシツタしつつ考えつけております。

「老人のいいこの場、女のぐちのこぼし処、誰でも楽しめる趣味の学園」命ある限り学び、働き、若者のような夢を抱きながら、その何分の一でもいい実現したいものだとは本気で考えている私です。御賛同下さる方をお待ちしております。

(隣木村商事、専務・旧姓塩谷)



航空安全祈願祭

高見正夫

東京国際（羽田）空港の一年は、元日早晩六時からターミナルビル屋上の羽田航空神社と羽田空港穴守稲荷神社の神前で執り行なわれる航空安全祈願祭から始まる。この祈願祭が行なわれる頃には、既に川崎大師などの初詣をすませた人達が初日出を迎えるためターミナルビル屋上に多数入場しているか、祈願祭終了後は参拝者並びにこれらの入場者の先着二千名に「ぞうに」と「ぜんさい」が供応される。ちょうどその頃には滑走路向うの東京湾の水平線上に初日出が顔を現わすのである。

航空安全祈願祭は以前から内輪で行なわれていたが、昭和四十一年航空機事故が続発したのにかんがみ、翌四十二年元旦から盛大に執行されるようになった。お蔭でそれ以後は事故もなく、航空事業は益々繁栄の一途を辿っている。

ることはご承知のとおりである。

羽田空港穴守稲荷神社は昭和三十年ターミナルビルが建設されたとき、以前の穴守稲荷神社の境内がビルの敷地となったので、本社は海老取川の向うに遷座されたが、その分神としてターミナルビル屋上に鎮座されることになったものである。毎月十七日が例祭で二月と十一月のそれが例大祭となっている。ターミナルビル前面の有料駐車場の中に朱の鳥居が立っているが、昔はこの附近に京浜急行の穴守駅があり、この鳥居が参道の入口になっていたという。

この鳥居は終戦後米軍が飛行場を管理していたころ取り壊そうとしたが、何人もの怪我人が出たので祟りがあるというので、そのまま存置することになったということがある。一方、羽田航空神社は昭和三十八年七月ターミナルビル大増改築の際、芝田村町の飛行館屋上の航空神社の分神として遷座されたもので、航空機事故の殉職者や航空界に功労のあった人達が祀られており、毎年五月二十日（ターミナルビル開館記念日）が例大祭の日となっている。

ところで、稲荷神社など承知のとおり商売繁盛の神様でもあるので、航空安全祈願祭は単に航空の安全のみならず

航空産業の発展をも祈願するものであるが、このところ航空旅客や貨物の増加は全く異常ともいえる程である。そのため羽田空港のターミナル施設も増設につぐ増設に追われている。昭和四十五年春にはB七四七巨人機（一、二等で三百七十人、二等のみだと五百人乗り）が東京に入ってくるので、その受入れのため、新空港使用開始までのつなぎとしては相当問題はあるが、やむにやまれぬこととして目下三十数億円を投じて国際線新到着ターミナルビルの新築や、既存本館の増改築工事などを実施中である。追っかけて国内線関係施設の拡張も実施せざるを得ない雲行きであるが、いずれにせよ着々ターミナルビルも面目を一新することであろう。

（日本空港ビルディング（株）常務取締役）



丹波の開発へ

西山敬次郎

笈を負って故郷をはなれて、はや三十年になります。それでも四季の折々に幼なかつた頃の故郷の山川を想い出してはなつかしんでおります。

時々帰省する度に道路もよくなり、住宅も立派になっていくのが目立ちますが、全国的な経済の驚異的な成長からみれば、丹波が次第に格差を拡げられていくのがまことに残念です。

現在通商産業省で地方管理官として全国の八つのプロックの経済の実情をみて特にその感を深くします。

昨秋から沖縄対策室長も兼ねて、沖縄の経済開発に微力をつくしておりますが、丹波の経済開発にも何かお役に立てればと思っております。

（通産大臣官房地方管理官）

郷友会とわたし

安藤 秀夫

わたしが氷上郷友会に出席する様になりましたのは、亡父の存命中ある年の総会に亡父にボディガードとしてついて行き、新橋駅二階の日本食堂で丹波のいしし鍋を会員の皆さんとつき合ったのが最初でありました。亡父の勤めの関係で東京で生れて育ち小学校から中学校、高校、大学と全部東京だったので両親の生れ故郷の柏原には中学、高校時代夏休みに行っただけで土地、家に縁がうすく完全ないわゆる二世でしたが、在京の従弟または親類の方々も来ておられ、話し相手もあり愉快な集りでした。父が死にました後も時折り出席しつつ今日になり、過日の浜離宮公園での会合には初孫（二男の長男）も連れて行きましたが孫同伴はわたし一人だったでしょうか。

わたしが東大土木科を出て社会人となったのは今から四

十六年前（丁度関東大震災の年）内務省（今の建設省に当る）八年、帝室林野局（宮内省）十六年、林野庁（農林省）五年の役人生活二十九年後、林野庁土木関係O・Bで造った土建会社で四年を過し去る三十二年春から今日まで引続き日大の理工系の学部で「第二の人生」を送っており一昨年定年となりましたが、非常勤で週三日（担当時間十時間）教室に出掛け若い学生を相手にし、毎月曜日は建設省（内務省も含む）O・Bで構成されている土建会社に行き昔の仲間、先輩と談笑に半日過しております。わたし自身今の処健康に恵まれていると共に子供、孫共一同元気でですので何よりの幸いです。妄言失礼。（日本大学生産工学部・理工学部）

セックス礼讃

日本一の性豪

堀川 萬次

人生の根本はセックスであり、セックスこそ健康のバロメーターであり、幸福のシンボルであります。

朝セックスの立たない男に金貸すな、トイレに入って紙を使わなければならないような男に金貸すなどの諺わざがあります。

実に真理であります。

言うまでもなく夫婦はセックスによって成り立っておるものであります。

赤の他人の男と女が兄弟姉妹よりも、親子よりも仲良くなるのはセックスのためであります。

従って学問は、総てセックスから発したものでなければ死学になってしまいます。生きた学問でなければ世の中に害毒を流すことになります。

日本人は諦めの人種で老爺さんお婆さんになるのを当然のことと思ひ、研究しようとしません。

悲しむべきことであります。

外国人はお爺さんお婆さんになるのを極力嫌がり、その研究は猛烈至極と聞いております。

然り、当然のことであります。

三十才四十才を過ぎても結婚できず、悩み苦しんでいる女が到る処に如何に多いか。日本中の都市の周辺には欲求

不満を訴える人妻が、白昼夫の留守に満足を与えてもらえぬホテルが軒並に出来ております。

日本男児の面目何処にかある。正に亡国の兆し歴然としているではありませんか。

医学政治宗教の貧困思ひ余るものがあります。

私は多年セックスを研究し、その哲理を究め得ましたので、私も妻も一生お爺さんにもお婆さんにもならず、セックスを楽しみながら死に、以って範を後世にたれるつもりであります。

實際セックスが元気ですと、この世の中に恐いものとして何も無い。全く天下無敵の境涯で、私共は身軽で氣楽で強い夫婦二人限りの孤高生活を楽しみ、この世でパラダイスに酔うております。

私は大器晩成型で、百才にして立つの意氣に燃えて闘志満々、六十六才を境にセックスを先頭に全身が若返りつつあり、八十才になったら五十才に、九十才になったら四十才に、百才を過ぎたら三十才に、二十才にと、若返り、十五年前に入れた総入歯に新らしい歯を生え返らせ、以って日本を代表する世界的な生きた国宝として、全世界に万丈

の氣を吐かんとしております。

明治維新以来百三年、全面無条件降伏以来二十五年、好むと好まざるとに関わらず、愈々日本も、否世界が大きく動き出して来しました。

郷友諸君思いを此処に致し、丹波男児の面目を大いに發揮されんことを、望むや切なるものがあります。

私は子供の時から疊の上で死にたくない、長生きしたくない、子供を生みたくないないとの考えを持ち、同じ人間じゃないか、人間に成りはないじゃないか、働く者が賤しくて、働かずにぞろっとしておる者が貴いなんて、そんな馬鹿な世の中があるか、自分は百姓町人の生れである、さむらい（月給取り）の真似はしない。この世の中から封建的な心、封建的な物を無くすることを以て理想とすると絶叫したのでありますが、この精神は七十四才になる今も、聊さかの衰えも見せず、愈々益々旺盛絶倫で躰がて目下執筆中のセックス礼讃が完成すれば、漸次東京を始め世界各国の首都で堂を揺がす大熱弁、一人一党正論を吐いて下らざる大獅子吼で、丹波男児の真面目を遺憾なく發揮することになるであろうと思われる。郷友諸君刮目側耳して待て。

精一杯、働く

須藤 清

久しぶりに「山ざる」が出るようで「お目出とう」を申し上げます。

二十数年勤めた会社を停年退職し、二年程関西のゴルフ場の支配人をしていたが、ソコ冷えの京都の冬のチョンガ―暮しに堪えかねてまたぞろ東下りとなりました。

しがたない建設会社の老社員として、それでも精一杯働いていることを、否、働けることを有難く……喜んでいる昨今です。

出発と終着——（産衣と送葬）——との間の喜びと悲しみとの交錯する人生は所詮孤独なモノと判って来た今日、小市民として自分なりに生き甲斐のある？ 余生を完うしたいものと考えています。

（集成建設労働務）

お互いの知恵を持ち寄ろう

松山幸逸

さる二月の中旬のある日、京都の鳥津製作所の重役をやっている友人から珍らしく、電話がかかって来た。要件は

「僕たちが篠山の鳳鳴義塾を卒業してから本年は丁度五十年にあたるから、皆んなで同窓会をやるうちやないか、という話が関西の連中の要望なんだ。東京組（現在三名在住）は一向に会う機会がないから、この五十周年記念のクラス会には、全員ぜひ出席して貰いたい。会場は篠山にするが、日時は東京組が決めてよろしい」。

こういう話であった。中学の卒業年次などすっかり忘れていた私だが、いわれて見るとなるほどもう五十年になるのかな、とひととき感慨にふけた訳である。

五十年前、東京へ来るのに、大阪まで四時間前後、大阪、東京間が急行で十一、二時間かかった様な記憶があ

る。それが現在では、新幹線でいけば六時間くらいで往復できるのだから、この一事を見ても、五十年の変遷は大へんなものである。わが郷友たちにしても、五十年前は東京の大学に入学したり、就職する者は一、二名であつたろう。それが、今日では柏原高校から東京の大学へ進学する者だけでも二十名前後だというから、現在東京及び東京圏内の郷友の数も意外に多いのではないかと察せられる。

そこで、お互いの連絡や友情と親睦をどのようにとり結ぶかというのが、郷友会に与えられた今日の課題であろうと思う。だが、効果的な策となるとなかなか困難である。時代も七〇年代に入ったし、私もまた古来稀だといわれていた七十才を迎えたことでもあるので、これからは郷友会を従前以上に魅力のある会であるように、運営などについても微力を尽して協力していきたいと考えている。

何といつても郷党の方々から親しまれ、愛され、楽しい会であり、それが幾分でも郷党のためになるような存在になることが絶対必要であつて、その事はさきにも触れたが、むずかしい問題だが会員の方々の知恵をもちよつて、やってみようぢやないかというのが、わたしの提案である。



■ 郷土便り

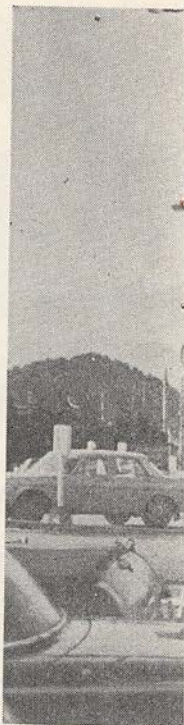
かわるふるさと

芦田 雄二

皆さんの生れ在所も年ごとに変貌して行きます。一年前二年前に比べると、テンポは遅いながら近代化への装いは顕著です。「草深い」とは田舎の代名詞で、屋根さえ草薺が多い水上郡の町村でしたが、昨今ほどの町もすごい建築ブームで、個人の住宅が離れが色とりどりの蕭洒な近代建てものにかわり、鉄筋建ての三階、四階の公共施設がつぎつぎ出現して、ここ数年郷里へお帰りになっていない地方の眼をみはらせることでしょう。

道路の改良が進んで水上郡を走っている二本の国道（明石―舞鶴線、大阪―福知山線）は立派に整備を終り、また石生の水分けから佐治―遠阪峠を越え但馬へ抜ける山東―柏原線も国の主要道となって改修されました。

農家事情も変りました。むかし故郷で少年のころ、家の農作を手伝われた経験のある方は、刈り束ねた稲を天びん棒で荷なって稲架場へ運んだ記憶をお持ちだと思いますが、



流れが鈍ってきまし

昨今はそんな風景はみられなくなって、トラクターや小型トラックをフルに使って運びこんだり、コンバインが刈り取り脱穀を一ぺんにやってのけ、ライスセンサーを持ちこんで作業場いらずの機械化、大型化農業時代へ移って行きます。とくに市島町は全国的に知られた農業構造改善の町で全国からの視察者が相次ぎ、一枚三十坪(三反)の田が碁盤の目のように広がって作業はしやすくなりました。猫の額(ひたい)のような棚田で米作りのむかしの姿が記憶に残っている方々には、「なんと、丹波もえろわかかったもんなやなあ」ということになりました。

とはいっても、終戦時十万人を擁した氷上郡の人口は現在八万人を少々割ってしまっています。出生児減少に加えて人口都市集中化の波は、京阪神に比喩的に近い丹波をまっ先に襲った形です。各学校を出る若い人々は都市に職場をもとめ、家をあげて就職する世帯が多かったのです。この状態はここ四、五年來の著しい事象でした。しかし最近やっとその

た。地元で格好の企業がふえたことや、新卒者の一度は都会へ出てみたいという考え方が、やるなら最初からここに止まって——というようにかわったからと思いますし、一家移住も出る人は出つくしたと考えられます。ほんとにやる気ある将来性のある企業が多くできましたし、農業にしても、問題はかかえています。やり甲斐のある大型農業化への条件がそろってききました。五反百姓はいややなしに専業農家となるか、それとも主収入を他に求めて飯米だけをつくる第二種兼業農家となるかの、どちらかを選ばねばならない時代になろうとしているからです。

いま農家では、米の減産が問題になっています。これまでの米作り反別を一割減らせというのです。増産増産と尻を叩かれてきて、米が余れば手の平をかえしたように減産せよでは農家の不満も一しおとなりますが、氷上郡で減らそうとする三百五十ヘクタール(三百五十町歩)は菜園芸や農地改善事業などで消化されるでしょうが、かわればわかるものです。

ことしの新年早々、郡内六町の農協が行なった「新春預けぞめ」では、一日で六億一千万円が集まりました。現在農協の預金総額は約百十億円に達しておりますし、他の金融機関の分を合すと少くとも二百億円以上と推定されています。これが一万七千世帯の「内ぶところ」で、家庭生活、経済水準もかなり上昇しまして、このごろ「丹波は後進地ではない」とか「氷上は経済水準の高いところ」という声をよく聞くようになりました。金井兵庫県知事も「住民自らも、行政指導者も、丹波のよさを再認識し、そのよさを大いに周知させ、自信をもってパラエティーに富んだ都市近郊農業地帯としてほしい」と話していますが、草深かった氷上郡が、近代農業と工業の盛んな郷にかわる日はそう遠いことではなさそうです。

ご帰郷の折、国鉄福知山線の柏原、石生、黒井、市島駅あたり、近代工場群が数を増して行く姿を氣にとめて、ふる里再認識の糧にして頂きたいと思います。



五月十一日・浜離宮にて

春の懇親会

会務報告（昭和四十四年度）

近年、会員懇親の行事が今一つ盛りとほし

く一部有志の間で憂慮する声もあり、特に若い人御婦人等の出席をさかんにするにはどうすればよいかというのが、ここ数年来の懸案となりながら、充分にその意を果すことが出来ませんでした。そんな思いの中で企画した春の総会は、五月十一日午前十時より、浜離宮恩賜庭園を利用し会費を安く（五〇〇円）して会員家族づれで参加下さるようにとのよびかけを致しました。

当日は折悪しく朝から強い雨でどうなることかと心配しましたが、会場には時刻には続々と会員が詰めかけ、会場文字通り膝を接して相互の親睦には予想外の効果があり、参加者から大変喜ばれました。郷友会の生き字引的存在の堀川萬次氏が右に左に会員の間を動いてお互いに紹介して廻られ、郷里に遠い東

京に意外に近しい人がいたもようであることがうかがう人がそここに現われるといった有様でした。午前十一時、有田喜一先生が奥様と共に御参加下さり、伴仲氏の司会で総会を開会。石橋会長の挨拶、芦田副会長より会務報告があり、有田先生から政界の現況につき貴重なお話を承りました。

会食の間にもなかなか会話と笑聲がたえず、会場予約の時間がなくなるまで、話は尽きませんでした。会場を出て、隣のアズマヤで記念写真をとりました。公園の新緑が雨に洗われて一きわ鮮かさを増すなかで、そこそこに立話が一時間余りも続いたものでした。

出席者名（アイウエオ順、敬称略）

足立正、安達健一郎、安達陽一、芦田秀雄、芦田徹郎、芦田保、有田喜一、有田久代、安藤秀夫、金子一二、生駒篤郎、石橋治郎八、鵜沢洋子、大河芳子、首無太美子、葛谷理俊、小寺辰二、莊克衛、田辺信夫、常岡幹彦、塚口稔、永井常資、野村利吉、野村千里、林田孝子、伴仲信次、福井勇蔵、堀川萬次、吉竹貞治、渡辺勉、畑光、永井彰一郎、以上とその他の家族総勢四十七名。

秋の懇親会



秋には、小石川後楽園瀟德亭で十一月九日、黒井音頭のB、G、Mでふる里の雰囲気をもり上げて懐郷の話題に花が咲きました。関西郷友会から御出席された余田氏が明治時代に発行の郷友会会報を幾冊か持参されており、誠に珍しい記録を拝見することが出来ました。

出席者名（アイウエオ順敬称略）

足立誠一、足立正、浅田和雄、芦田秀雄、有田喜一、安達陽一、安藤秀夫、石橋治郎八、石橋正康、生駒篤郎、梅垣作太郎、植村章子、荻野定一郎、荻野行雄、荻野演一、荻野武、大槻喬、小田武次郎、小田利江、小川晴通、金子一二、葛谷理俊、久下梅次、小寺辰二、莊克衛、常岡幹彦、伴仲信次、堀川萬次、前田和市、前田貞夫、余田貞雄、横山幸三、渡辺勉、渡辺金三、以上とその家族四十八名。

右会合のもようについては郷里の『丹波新聞』並に大阪の『但丹人』紙上にそれぞれ報道されました。

尚、春秋二度の懇親会に有田喜一先生より飲物一切を御寄附頂きました。



十一月九日・後楽園にて

大槻さん逝く

わが郷友の大先輩であり、本会の副会長の大槻喬さん、温顔を役員会、大会ごとに必らず出席されて、いろいろと御指導して下さっていた大槻喬さんが、昭和四十四年十一月十六日、脳卒中のため、東京目黒の自邸で急逝された。享年七十六才、われら郷友にとって、まことに痛恨極まりない悲報であった。

自邸での通夜は十七日、密葬は十八日、何れも近親者、大学関係者、郷友有志等によってしめやかに営まれ、ありし日の先輩の靈に限りない告別の涙を流し冥福をお祈りしたのであった。

大槻さんは、東海大学の大学院工学研究科委員長、工学部、第二工学部電気工学科電気工学専攻主任教授をされていた功労者として、二十四日午後一時から、同大学代々木校舎で大学葬が、しめやかな中にもいとも盛大に行なわれた。なお

高顕院瑞薫堂居士

というのが大槻さんの法名である。

大槻喬氏略歴

大槻さんは明治二十六年兵庫県氷上郡柏原町に生まれ、同四十三年県立柏原中学、大正三年東京工業高等学校付設工業教員養成所を卒業、同三月宮城県立工業高校教諭をふり出しに、東京高等工業、熊本高等工業、東京工業大学、明治大学などで長年教鞭をとられ、昭和四十年東海大学に迎えられ、教授に就任以来、同大学の工学部門の発展に大きな足跡を残された。

何といっても大槻さんの温厚な人柄と、親身になって多くの学生を指導された包よう力は高く評価され、そのためでもあるまいが、昨年五月には電気学会の会長に推され、今後大きな期待が、学会から寄せられていただけに大槻さんの急逝は、深く惜しまれたわけである。

電気学界における大槻さんは、遠く昭和六年にドイツのダルムシュタット工業大学からドクトル・インジュニア、同七年には東京大学から工学博士の学位を、同十九年には東工大から名誉教授の称号を受け、さらに同十九年に正四位、同二十一年勲二等瑞宝章を、逝去に際しては正三位に叙せられ、銀盃がおくられた外、過去にも功労に酬ゆるため、感謝状や銀盃を受けたこと度々であった。

● 東海大学葬

大槻喬教授の東海大学葬は昭和四十四年十一月二十四日午後一時から東京代々木の同大学講堂で行なわれた。

式場には信子未亡人、長男弘久氏をはじめ遺族、大学教職員、学生、東京工大、電気学会ほか各界から一五〇〇名が参列してとり行なわれた。

菊花でうずめられた祭壇には故人の温容ある遺影や、生前の業績を示すかずかずの褒章が飾られ、改めてその遺徳を偲ばせていた。

式は足利学長の開式の辞にはじまり、建学の歌を斉唱して黙祷をささげ、その霊を弔った。ついで牧野学術局長が個人の学歴を述べ葬儀委員長松前重義総長より、恩師の逝去をいたむ切々たる告別の辞がおくられた。

つづいて、吉山博吉電気学会副会長をはじめ各界の弔辞、弔電を披露、続いて焼香に移り、本会石橋会長、芦田副会長以下郷友の方々を初め、参列者たちが次々と焼香、ご冥福を祈って、しめやかな裡に式を閉じたのであった。

——当会會員有志より——

郷里の小、中学校へ ニュースの贈り物



当会會員の中よりその出身小、中学校へ、報道ニュース写真を毎週四枚、中学生新聞、小学生新聞、毎週各々三回を、年間を通じて掲出することを寄贈されている方々が大勢いられることをもれ聞きましたので編集子が調

査致しました処、本年度左記の通りの調査結果を得ました。掲出寄贈を受けた小、中学校では、その時々ニュースが見やすい報道写真で全校生徒児童の目に止まるのみでなく、一週間の掲出期間後も保存して貴重な社会科の教材として活用し大層よろこばれているようです。

＊

青垣中学校	足立誠一氏
佐治小学校	谷垣正雄氏
新井小学校	荻野英夫氏
山東中学校	芦田秀雄氏
鴨庄小学校	片山日幹氏
氷上北小学校	西川政一氏
大路中学校	渡辺金三氏
竹山中学校	小川晴通氏
竹田小学校	植木伍鹿氏
氷上南小学校	小林武治氏
和田小学校	伴仲信次氏
和田中学校	小寺確郎氏
船城小学校	荻野定一郎氏
春日部小学校	
春日部中学校	

消 息



小 中 克 己氏（市島）は昨年八月、茨城大学学生課長に栄転、水戸市にある同大学公舎に移られた。（名簿参照）
水戸市は静かなただずまいをおわせる古い歴史の街で、大變氣に入っておられるとの便りです。

なお市島の小中富士夫氏は同氏の実弟で、家業をつがれ、傍ら国鉄職員として御活躍中との事。

*

上 山 顕氏（柏原）は、このほど労働省に設けられた「通勤途上災害調査会」の会長に就任された。同氏は労働省の初代職安局長になり、その後、中央労働基準審議会や労働保険審査会委員など歴任、この道の権威であるから、立派な業績をあげられることと期待される、

現在は船員保険会会長。六十五才。

計 報



秋 山 徳 三 郎氏（春日）	昭和四三年二月二六日
船 川 尤 三氏（春日）	昭和四四年二月二四日
関 亀 治氏（氷上）	" 四月 五日
近 藤 憲 二氏（市島）	" 八月 六日
阪 東 政 雄氏（市島）	" 二月二〇日
大 槻 喬氏（柏原）	" 一月二六日
律 田 毅 三氏（柏原）	" 一月二八日
今 井 栄 治氏（柏原）	" 一月二九日
永 井 彰 一 郎氏（市島）	昭和四五年九月 三日
大 西 隆 夫氏（青垣）	" "

謹んで各氏の御冥福をお祈り申し上げます。

愛郷の心



秋山徳三郎追想録より

昭和四十三年二月二十六日、七十七才で亡くなった、元陸軍中将秋山徳三郎さんは大それた愛郷心の厚い人だった。黒井の旧家に生れて、旧柏原中学校を卒業するまで在郷したあと陸軍士官学校に入り、東京帝国大、英国ケンブリッジ大学で土木工学を専攻したその道の大家で、陸軍きっての権威者だった。

築城本部長等を歴任し戦後はその本領を荒廃した国土開発のために貢献した。

「こっそり帰郷しようと思っても、どこから知れて多くの方々に迷惑をかけるので、ついつい郷里へは疎遠になっていました」。

戦後、秋山さんが疎遠されたことがある。

軍国調華やかな時代には、どこでも、將軍の帰郷といえ、駅頭に町民多数が出迎えたものだが、秋山さんはきわめて謙虚で静かにふる里の風物に接することを望んだ。

財団法人氷上育英会の創設は実に秋山さんの功に負うところ大だった。昭和十四年、育英事業の必要性を痛感した小田嘉市郎丹波新聞社長が、真先に相談をもちかけたのは、当時陸軍少将で参謀本部にいた秋山さんだった。

事情を聞いた秋山さんは、

「やりなさい、私らで底分の資金をつくります」と即答し、同じ氷上郡生れで在京の和田出身高橋省三、黒井出身石橋治郎八さんらとはかり、基本金十万元の大半を調達し郷土後輩の英才育成事業が始まったのである。当時の十万元は現在の価値にして一億円以上に相当する。その基金は戦後の貨幣価値激変で

効力を失ったが、志を同じうする郡内多数の特志家によって再建され、常時三十人前後の育英生を擁し、多数の人材を輩出している。秋山さんらが播いた種はすえながく郷土を裨益するだろう。その他郡町の教育産業振興について意見をよせ、また助成するなど愛郷の美拳は数多く、対人関係においても情宜こまやかな文化人であった。

すぐれた郷土の先覚者を失ったことは惜しい。

こう書いて行くと、郷土愛の発露は物的な協力をもって推し計っているようにとられるかも知れないが、決してそんな意味ではない。離れていてもつねにふる里を想い、知り、ともに喜び、ともに案じる。これが愛郷だと思ふ。

精神的支援は、ときに物的支援にまさる。境遇に応じてその形態はちがっても、かような心のきずなは、明日の繁栄へつながる。遠くにおいて想うのもよいが、ふるさとをこころの中において喜愛をとにする出郷者であってほしいとねがう。

(昭和四十三年三月七日丹波新聞掲載)

関東氷上郷友会

会 員 名 簿

各町村別 (アイウエオ順)

● 青垣町出身者

足 立 誠 一 東京都文京区千駄木一の八の三

公八二一七二八三

(甥)三誠 公二五五一二五二一

足 立 雄 彦 神奈川県逗子市逗子三一四

足 立 範 雄 神奈川県逗子市逗子一の七の四

公〇四六八一七一四七四八

足 立 松 治 横浜市神奈川区大口通り三五

公〇四五—四二一—四七〇五

足 立 勲 平 藤沢市鶴沼藤ヶ谷一の七の四

公二二六四六一

(甥)川崎建設・東京支店 公五〇二—五二七—

足 立 玉 治 東京都台東区日本堤一の二八の一

公八七二—〇五三三

足 立 忠 三 名古屋市北区城北新町一の六

公九八一—二六〇七

人事院中部事務局 公九六一—六八三八

足 立 禎 次 大宮市三橋六の四六一の三

公〇四八六一四—一六七三三

日本製糸協会 公二八一—三四〇—四

足 立 守 三 東京都品川区小山三の一二の一八

足 立 三 治 川崎市今井南町四八〇

公〇四四—七二—二三四〇

つるや産業(株) 公〇四四—七二—六三七—

足 立 勝 美 東京都世田谷区桜上水三の一の一

公三〇二—七三七—

郵政省 公五〇四—四三六一

足 立 治 川崎市下小田中字中村(旧) セントラル 中原寮

公〇四四—七七—〇二二七

(甥)セントラル化学

足 立 幸 夫 東京都港区麻布十番二の四矢本博一方

公四五一—一三九三

足 立 秀 夫 東京都品川区小山町三の一 一 つるや洋装店內

公七八一—一九二二

足 立 幸 子 川崎市木月住吉町

関東労災病院高等看護学院

足立 博

武蔵野市吉祥寺東町二の三四の二
公〇四二二—二二四八五三

東洋信託銀行 副社長 公二七二—七三二一

足立 守久

横浜市神奈川区大口通り三五
公〇四五—四二二—四七一八

芦田 徹郎

東京都港区白金台一の一の二四
国光自動車 公四四—一—九七七二

芦田 忠雄

東京都豊島区西巣鴨四の二七五 弥生荘
公九一—七—二九〇二
日本醸造工業 公八一—二—五二七一

芦田 英祥

東京都武蔵野市中町一の一の二三の一
内外交通新報社 公二五六—〇〇〇五

芦田 坦

東京都杉並区高井戸四の一〇五一
日本電気 饒総務部特許課

芦田 保

東京都大田区萩中二の一三の一の四〇八
公七四三—三七九三
饒新工業 公七四二—二一一一

奥井 広

東京都荒川区南千住一の二九の六
公八〇七—七五四七

鵜沢 洋子

東京都北区岩淵町二の二一〇
公九〇一—二八五〇

白井 猛夫

千葉県市川市真門四の二の一〇 くるみ荘
東京医歯大医学部

遠藤 妙子

世田谷区代田六の一の一 芳月寮
公四六八—二〇三八

大西 隆夫

日本大学文学部物理教室 公三〇二—八一三一
東京都世田谷区上馬一の三〇の一
公四二四—六四一六
(本年七月十二日逝去)

大西 淑恵

東京都世田谷区等々力六の二九の一四
公七〇三—七七二八

萩野 演一

東京都杉並区阿佐ヶ谷北四の一四の二
公三三九—六九三二

小寺 確郎

日野市南平一五三三の二〇八
公〇四二五—八二二—二九六〇

小寺 辰二

東京都葛飾区金町一の二二の一
公六〇七—〇四五〇

小寺 忠夫

東京都葛飾区金町一の二二の一
公六〇七—〇四五〇

小谷 正己

神奈川町逗子市逗子一の六の四
公〇四六八—七一—三〇七五
つるや洋装店 公〇四六八—七一—四七四八

鴻谷 喜代治

東京都杉並区阿佐ヶ谷北三の三の二三
☎三三八—三三二六

内外ゴム ㈱東京支店 ☎四六二—五二五二

鴻谷 正博

東京都渋谷区代々木五の五〇の一 尚志館

☎四六六—一九九二

早稲田大学法学部

佐々木 守夫

埼玉県入間郡福岡町大原二の四の三四

㈱東京トヨタ自動車

白滝 勝康

東京都豊島区北大塚二の二五の四

☎九八一—四一五五

ニユースター内

篠原 よね子

東京都三鷹市中原四の八の三二

☎〇四二—四五一—二九〇五

竹村 政雄

東京都豊島区巢鴨六の一三二二

☎九八二—五七四〇

㈱十字屋

武田 辰雄

東京都千代田区平河町一の五

全国器械玉糸工業組合

☎二六二—〇九六六

土田 直吉

東京都品川区荏原三の一の二一

☎七八一—一九一一 つるや洋装店

中島 惇

東京都世田谷区下馬三の二の一三

☎四二一—四四〇三

汽車装造 ㈱ ☎六四七—一六八五

袴塚 節子

東京都墨田区京島三の二〇の五
☎六一三—二五〇三

細見 綾子

東京都武蔵野市境南町五の八の七

☎〇四二—四四一—二五九七

俳人、俳誌「風」主宰

細見 穆史

東京都世田谷区玉川等々力一の四一

☎七〇二—九六二三

日本ペイント ㈱東京支店 ☎四七四—一一一一

宮 和子

東京都大田区上池上町二三一

村上 豊

東京都大田区蒲田五の一八の一

☎七三一—四七九八

㈱スズヤ洋装生地店

山中 一朗

東京都品川区豊町二の二の一〇

☎七八一—四〇一七

タイガー計算器 ㈱ ☎五三五—四八四八

山中 秀雄

川崎市北加瀬二七四

つるや産業 ㈱ ☎〇四四—七二一—六三七一

山本 正司

東京都渋谷区代々木五の五〇の一 尚志館

☎四六六—一九九二

早稲田大学教育学部

横山

祝

東京都江戸川区南小岩七の三三の三

公六五七一六〇六六

横山産業 公六五四一四三三四

横山幸三

東京都江戸川区中央二の三四の六

公六五四一四三三四五

横山産業 公六五四一四三三四

●市島町出身者

安達稔子

東京都足立区竹の塚六の六の一

東武竹の塚マンション八〇六

足立士朗

東京都北多摩郡田無町一七一

足立潔

東京都北多摩郡田無町一七一

芦田重秋

東京都中野区大和町四の四九の一

公三三〇一五五〇七

日本開発銀行総務部調査役 公二七〇一三二二一

井上敏明

東京都足立区中央本町五の二二の一二

横渡辺紙工業

大槻嘉孝

神奈川県鎌倉市二階堂九三一

荻野武

神奈川県横浜市磯子区汐見台三の四

公七六一一九〇五〇 磯子第三住宅二三九号

横中央建材工業 公五七一五二二九

荻野英夫

東京都港区元麻布二の七の一三

公四七三一一三九〇一

横中央建材工業 公五七一五二二九

荻野一雄

東京都大田区上池台三の二六の二

公七二九一四九六七

木村つた江

東京都調布市東つじヶ丘二の三九の五

公三〇〇一六八九五

横木村商事

小林剛

東京都武蔵野市境五の一七の二四

公〇四二二一五二一四四二六

農林省畜産局蓄産経学課 公五〇二一八一一

小中克己

茨城県水戸市東原三丁目三の四一

茨城大学東原宿舍五〇一号

公〇二九二一三一三五七五

茨城大学学生課長

古林すみ乃

東京都杉並区宮前四の九の一三

公三三三一九二四七

塩見つるゑ

東京都杉並区西荻窪一の一七一

公三三四一〇四三二

須原清

東京都中野区南台五の三〇の六

公三八一一一六二一

横集成建設 公三七〇一二〇七一

高見 巻男

東京都足立区古千谷町三五
（銚子紙工業）

高見 幸男

東京都練馬区北町一の四三四
（銚子紙工業）
九三三—六七三

萬川 てる代

千葉県松戸市中矢切五一二
（銚子紙工業）
四七二—六二一六五二九

高松 萬夫

東京都新宿区四谷四の二三
（銚子紙工業）
四谷御苑マンション六〇六号
三五四—一九八

高見 嘉都司

東京都板橋区熊野町四〇
（銚子紙工業）
九五六—〇六〇〇

高見 孝男

東京都足立竹の塚七の三の二
（銚子紙工業）

永井 輝江

東京都杉並区松ノ木二の一〇の一
（銚子紙工業）
三二二—二六七五

西川 政一

東京都杉並区善福寺二の三五の一六
（銚子紙工業）
三九〇—一三一六

西山 敬次郎

東京都目黒区八雲三の三一の一
（銚子紙工業）
七七八—一四五二
通産大臣官房地方管理官

林 恭平

東京都杉並区和田一の五〇の二七
（銚子紙工業）
二一一—一三九五

淵上 綱蔵

東京都調布市小島町四〇七
（銚子紙工業）
四二四—八二二八九二

藤田 干治

東京都三鷹市下連雀五四〇
（銚子紙工業）
四二二—四三—四五六八
オリエンタルコンクリート社宅

宮部 宏

東京都杉並区大宮前四の五の一〇
（銚子紙工業）
早稲田大学教授
三三一—二二四一

百木 正孝

東京都杉並区堀ノ内一の八の三の一〇〇八
（銚子紙工業）
安宅産業・東京支店

山岸 享

東京都調布市小島町四〇七
（銚子紙工業）
淵上方

山本 清

東京都世田谷区深沢六の一五の一五
（銚子紙工業）
七〇〇—三二二一

依田 信太郎

東京都世田谷区代田四の八の二二
（銚子紙工業）
日本商工会議所参与
二二—一四四二一

余田 八郎

神奈川県藤沢市辻堂新町二の一の二三
（銚子紙工業）
神奈川工機・東京支店
五四—二二九一

余田 喜重

東京都三鷹市新川四の二の一
（銚子紙工業）
四二二—四四—一五六
柳町研究所
七四—九二九一

余田 貞雄

大阪市住吉区帝塚山東三の三四
六七三—七九九八 丹但人社

吉田 明生

東京都品川区南品川二の一の六
四七一—八二〇四
（甥）明友産業 八六二—七四九一—三

● 柏原町出身者

足立 一郎

東京都久留米市八幡町二—八—八
七七一—五三〇四
現代日本社

安藤 秀夫

東京都北区西ヶ原三の二二の一
九一〇—五七五九
日本大学理工学部 四〇四七四—七三一—二二一

安藤 英二

神奈川県逗子市逗子四の七の四七
四〇四六八—七一—二六二九
日本船用機関学会 五〇二—二三七一

安藤 繁夫

東京都世田谷区祖師谷一の四四一
三〇九—五七四五
日本学校給食会常務理事

生駒 篤郎

東京都保谷市東町五の一の一四
四二四—六一—六二六七

生田 清弘

東京都世田谷区喜多見町一二八
四一五一—一八九三
新明和工業（甥）東京工場

生田 正輝

東京都世田谷区船橋町四七
四八二—三三三—
慶応大学法学部教授 四五一—五一八一

池上 碩郎

東京都練馬区桜五の四五の一三
九九一—六一四八
（甥）第一生命住宅

石井 寿

東京都渋谷区代々木五の五〇の一 尚志館
四六六一—一九九二
早稲田大学理工学部

石井 久吉

神奈川県藤沢辻堂一七〇三
三六一—六五一四
（甥）清和産業 二二—五八四八

泉 睿子

東京都目黒区下目黒五一—二一九
七一一—六〇三〇

井本 義一

東京都豊島区駒込四の四の一
九一八—七三五四
神戸銀行・東京支店

上田 正己

東京都葛飾区東堀切の一〇 都営住宅三〇三

公六〇三—五七六五

例大谷商事 公六三五—一五〇一

上田 実

神奈川県横浜市神奈川区西寺尾町久保下

一二一六 公団一の三〇七

相模原技術高等学校

公四二七—五二—四七〇九

上山 顕

東京都港区赤坂八—六—三三

公四〇八—二〇五一

船員保険会 公四〇一—一一四六

梅津 昭治

東京都足立区梅島二の二五の二〇

例渡辺紙工業・東京支店

梅垣 宏

埼玉県戸田市上戸田一七一三

マルサン火の見下店

公四八四—三二—五九二八

太田 与市

東京都板橋区大山町三三

宣伝情報社 公九五六—五四一六

織田 信和

東京都武蔵野市境四の五の九

公四二二—五一—七七三一

例ソービル石油

大石 勝郎

東京都目黒区鷹番二の九の一

公七一三—一〇七三

大河 芳子

東京都杉並区久我山三の二の二九

公三三四—三六二七

三欣七号室

荻野 哲男

東京都豊島区巢鴨三の九一六 田口方

小田 利江

東京都練馬区関町六の四二九

公九二九—二四一二

笠島 富美

東京都杉並区浜田山一の二八の二三

公三〇二—六一九四

片瀬 勝義

東京都足立区梅田町一五九五

亀井 純一郎

東京都新宿区中落合二の二四の一〇

管野 きぬゑ

東京都玉川奥沢町二の二一

公七二一—六八九一

片山 尚夫

東京都渋谷区代々木上原一三〇〇

千代田生命上原寮

菊沢 貞雄

東京都世田谷区代沢二の一五二

近藤 敏雄

東京都江戸川区南小岩八の一の六

つるや洋装店主

小林 茂

東京都品川区豊町四の八の二

公七八二—六九九三

小谷 信造

東京都板橋区仲宿三九

公九六一—八一五九

日成商会 公五六七—一九四一

小 谷 寛 治

東京都世田谷区鳥山町八〇〇の六

公三〇〇—〇四五七

（傍）横浜日野自動車

公〇四六六—二二—〇一三一

小 谷 正 雄

東京都大田区山王三の三六の四

公七七—一六六五二

斎 藤 文 子

東京都文京区大塚三の一の一

大塚女子アパート

酒 井 重 男

埼玉県北足立郡新座町西堀字本多

一一〇七一—二二

（傍）オルガノ研究所 公八一—二一五—五一

志 村 勝 郎

兵庫県朝来郡和田山町玉置

公和田山二—三四四八

荘 克 衛

東京都板橋区蓮沼町五二

公九六六—五八八二

（傍）凸版印刷

実 保 二

東京都大田区調布嶺町一の一

公七二〇—六二六九

高 桑 良 弥

東京都杉並区阿佐ヶ谷北二の二一の二八

公三三八—七三九八

（傍）化学機械研究所 公四一四—四九五三

田 辺 善 人

東京都世田谷区喜多見町二二五一

公四一五—一九七三

（傍）東京施工 公四三六—一五八五八

田 辺 輝 一 郎

静岡県小田原市十字四の一〇一六の六

公〇四六五—二二—三九八一

（傍）東洋綿花 公五〇一—八二二一

田 口 正 男

東京都豊島区巢鴨七の一六五九

（傍）ニュースター 公九四一—五九六一

谷 達 雄

東京都練馬区桜台六の二九の二一

公九九一—六四五二

（傍）農林省食糧研究所 公六四五—九九一一

谷 垣 博

東京都田無市西原町四の七の九

公〇四二四—六一—三〇一一

（傍）日本技術開発・土木部 公二〇二—五二二七

谷 垣 尚

神奈川県横浜須賀市小矢部二の三三の一七

公〇四六八—五一—二四九九

（傍）浦賀重工 公〇四六八—四一—二四九九

谷 垣 正 雄

東京都杉並区高井戸西一の二四の一七

公三三三—六一六〇

（傍）水沢工務店 公六四一—七一—一

津 田 康 郎

東京都三鷹市上連雀八〇四

常岡 幹彦

東京都立川市柴崎三の一二の三
☎〇四二五—二四—四〇九七（呼出）
画家

常岡 文亀

東京都立川市柴崎三の一二の三
☎〇四二五—二四—四〇九七（呼出）
画家

常岡 昭

東京都世田谷区野沢二の三四の九
☎四一—一三〇六
日本鋼管病院（川崎）
☎〇四四—三三—五五九一

田 健一

東京都世田谷区松原町四の九の三二一の
一四七四
文部省体育局学校保健課

田 浩

東京都渋谷区代々木五の二四の一
☎四六六—〇六四一
（金商又一） ☎六六八—八二一一

田 誠

東京都渋谷区上原三の三三の八
☎四六七—四三八六
東京ステーションホテル ☎二三一—二五一

永井 常資

東京都町田市鶴川四の二五の六
☎〇四二七—三五—三七六一
（例）渡辺紙工業・東京支店 ☎八六一—二三三二

中川 四朗

東京都目黒区八雲一の八の二一
☎七一八—一九六七

野村 虎男

群馬県前橋市若宮町二の一の五 寿荘
☎〇二七二—三二—二三七二
（例）関東製酪

林 田孝子

東京都目黒区自由ヶ丘二の一七の一〇
☎七一七—三八二四
北茨城市関本町福田一八七一

広沢 克江

東京都新宿区戸塚町二の七六
☎二〇二—三九四一
厚生省医務局 ☎五〇—一四八七〇

久安 敏夫

東京都杉並区天沼三の二三の八
日本航空電子工業（例）
☎〇四二五—四一—一四一四

堀川 萬次

東京都中央区晴海団地四の五〇五
☎五三一—二五一
百才青春著作出版セックス礼讃執筆中

細谷 豊

東京都港区南青山六の一の六パレス青山一〇六
☎四〇〇—三二五

本庄 久雄

東京都中野区江古田町一の一八〇
東京都南多摩郡多摩町連光寺二三一七
（例）日本興油工業 ☎二五三—〇九一一

松本 金吉

松本源吉

東京都杉並区高円寺南三の三四の二
公三十四一八八二

台湾協合理事 公三六九一八一六

松本一也

東京都世田谷区上用賀四の三六のC四〇一
公四二九一九九四四

農林省

三崎復造

東京都世田谷区玉川上野毛町二八五
公七〇一一二三三〇

村上喜有

神奈川県横浜市区南區笹下町一七〇五露木卓造方

山本徳治

埼玉県蕨市南町二の三〇の一〇
公〇四八四一四一一二七一一三

安間喜代子

東京都世田谷区玉川奥沢町三の五八

矢本博一

東京都港区麻布十番二の四

吉竹貞治

東京都足立区竹ノ塚四の三の二七の二〇四
公八八四一〇六八五

明星工業 公六六九一〇四四一

春日町出身者

足立石蔵

東京都練馬区石神井町二の三五の一四
公九九六一六七〇五

飛行機建設 公二六三一三一五一

足立かおる

埼玉県朝霞市公住一一の二〇四
公〇四八四一六一一八三一五

足立昌彦

千葉県千葉市稲毛台町八番六号
鋳川鉄機械工業

足立譲

東京都港区赤坂青山高樹町一二

秋山一男

東京都新宿区新小川町一の一三
公二六〇一一九六二

鋳春日建設

芦田六之助

東京都杉並区高円寺南三の一九の一

芦田敏之

東京都文京区小日向一の二五の一四

赤松祐之

東京都目黒区中目黒五の一五の一
公七一三三七〇四

ラジオプレス通信社 公三五三一六二二

旭弘

東京都杉並区下高井戸四の一〇四六

アヤ子供服店 公四六七一六〇三二

秋山米子

東京都阿佐ヶ谷北二の二五の二五
公三三九一四一三三

故秋山徳三郎夫人

石橋治郎八

神奈川県横浜区磯子区森町四一七
公〇四五七七五一六一五二

鋳石橋生絲 公〇四五一六四一一七一一六

石橋 正康 神奈川東横浜市緑区市ケ尾町一一六〇

三菱樹脂アパートA三〇一

井上 和三 東京都東京都世田谷区船橋町三〇二 鈴木方

協同乳業世田谷営業所

上田 讓 神奈川東横浜市神奈川区上反町二の一七

公〇四五—四九一—一六三二

上田齒科医院

上田 要 兵庫県芦屋市松の内町九の五

植村 章子 東京都武蔵野市吉祥寺本町三の一七の一〇

公〇四二—二二—七七九七

荻野 定一郎 神奈川東鎌倉市御成町一七の一四

公〇四六七—二二—六七四二

荻野法律事務所 公二二—一七〇六一

荻野 謙一 東京都台東区上野桜木二の二三の四

公八二—一五二七〇

（株）東峰商事・社長 公八二—一五二七〇

荻野 公一郎 東京都足立区伊興町狭間八三三

小田 武次郎 東京都練馬区関町六の四二九

公九二九—二四一二

荻野 行雄 東京都世田谷区砧八の八の一七

公四一六—二八五七

大西 俊治 埼玉県川越市市場二〇六五

公〇四九二—三一—九二八一

（株）埼玉日産モーター・熊谷支店

音無 太美子 東京都江東区木場六の六の一六

柿原 庸 東京都武蔵野市吉祥寺南町四の二四の一

公〇四二—四三—六〇〇七

（株）武蔵野音響 公二九四—六七七一

柿原 清 東京都江戸川区西小岩一の二〇の一八

公六五七—七三六〇

（株）ニシキ 公六五七—〇九一〇

片山 邦夫 東京都中野区鷺之宮一の七

片山 日幹 静岡県富士市北山大本山本門寺

勝野 きしの 千葉県松戸市松戸一一六九 中山荘

東京都葛飾児童学園 公六〇七—五六五六

河津 助治 東京都新宿区矢来町二

（株）近藤写真製版所 公二六〇—六二八一

河津 省三 東京都中野区松ヶ丘二の三の一〇 平野方

東京信用保証協会

栗原 重次 埼玉県浦和市岸町二の八六

（株）島田特殊硝子・社長

小林 武治 東京都武蔵野市境南町一の三〇

国学院大学

近藤 包之助

東京都杉並区大宮二の六一二

近藤 林蔵

東京都新宿区矢来町一

公二六八—六四五—

近藤藤写真製版所 公二六〇—六二八一

近藤 国夫

東京都杉並区大宮前二の六一二

昭和造機 公六一—七二九—

佐々木 盛雄

新宿区中井二の一の一八

公九五一—二八五八

佐々木盛雄事務所 公二〇九—三二七六・七

高見 孝男

東京都渋谷区初台一の五四の四

京王初台アパートメントA二〇二

公三七六—三四二—

安宅産業・東京支社

高見 芳明

東京都調布市深大寺町九九七 内野三郎方

公〇四二四—八二—四三三〇

電気通信大学

高見 安亮

東京都練馬区下石神井二の一六三三

朝忠勇

高見 正夫

東京都杉並区高円寺南三の二五の一〇

公三二—二六九—

朝日本空港ビルディング 公七四—一五一—

高見 卓治

東京都北区赤羽西三の二三の一二

公九〇〇—三八五—

朝三井物産 公五〇五—二〇一一

高松 常太郎

埼玉県北足立郡桶川町東二の八の一

公〇四八七—七三—二五三九

明治神宮外苑経理部 公四〇八—九五三—

竹林 すま子

東京都目黒区碑文谷四の一六の一二

公七一—二五七〇〇

田村 克典

東京都練馬区下石神井二の一六九四

公住一〇の二〇七

朝日商岩井

頼沢 豊

千葉県市川市国府台一の一

東京医歯大 里見寮

能勢 次郎

千葉県千葉市穴川二の三の六

朝木徳証券 公六六—一四八一

野村 嘉男

千葉県八千代市東町二四七の九二

朝渡辺紙工業

野村 修己

埼玉県春日部市武里団地五の二三の二〇三

朝渡辺紙工業

野村 利吉

東京都目黒区柿ノ木坂一の二の九

公七一—七五二—

野村 千里 東京都目黒区柿ノ木坂一の二の九

☎七七一五二二九

畑 時美 埼玉県南埼玉郡八汐町大曾根七八

畑渡辺紙工業

畑 秀夫 東京都江戸川区南小岩三の九の二

畑木徳証券 ☎六六六一一四八一

畑 義博 東京都小金井市東町一の二の一七

☎〇四二三一八一六八六一

畑三和経済 ☎五九一〇八二五

波多 洋三 名古屋市中区南武平町二の一

大阪電気暖房・名古屋支店

伴 仲信次 東京都新宿区細工町二七

☎二六〇一四七二五

㈱春日建設 ☎二六四一四〇一一

広瀬 靖典 東京都目黒区中目黒二の一の一

都職員寮二の四二七

都立駒込病院 ☎八二八一六二五八

深尾 須磨子 東京都新宿区柏木四の九六五

☎三六一一二五一一

藤田 操子 東京都世田谷区祖師谷二の九九

☎四八二一一九四七

婦木 一男 神奈川県藤沢市下土棚四六八

☎〇四六六一四四一〇一二三

洋装店経営

細見 才次 東京都町田市熊谷町七五五

東京都豊島区西池袋四の八の八

松山 幸逸 ☎九七一五七四三

東京協栄社 ☎五八二一七三五一内線五一九二

松山 岩雄 東京都大田区入新井二の一〇五

東京都渋谷区代々木五の五の〇一一 尚志館

松山 康裕 学習院大学々生

☎四六六一一九九二

三浦 巖 東京都世田谷区大原一の二八の七

☎四六六一三八二六

三浦 成夫 中野区中野一の一四の一四

東京都大田区多摩川一の二の一の二二

三宅 博 ㈱スズヤ洋装生地店 ☎七三一四七九八

東京都保谷市柳沢六の九の一七

水船 隆昌 ☎〇四二四一六二一二二三

動力炉核燃開発事業団

村上 未吉 中野区東中野一の二の五

☎三六九一八三四

㈱桂工務店 ☎三六九一七〇三〇

安田 功

東京都世田谷区世田谷四の二二の八
丸三証券(株) 公二七二一五二一一

柳田 保子

東京都墨田区東駒形三の一六の一〇 大田方
公六二二一三九九一
(株)太田機械製作所

矢持 昭義

東京都世田谷区根本町一八六〇
東京都練馬区下石神井一の二四
公九九七一八七一

山口 隆

(株)平凡社 公二六二一九八一

山口 邦江

東京都文京区駒込上富士前七三
明治乳業販売店

由良 剛志

東京都千代田区平河町二の七 平河寮
東京都千代田区外神田一の一六の一
公二五三一〇六〇

吉住 重造

(株)ノーススター 公二五三三三九三三

吉住 政子

東京都千代田区外神田一の一六の一
東京都港区南青山二の一三の一三
公四〇一一一二七〇

余田 汎子

● 山南町出身者

足立 定

東京都杉並区西荻窪北三の二一の七
(株)渡辺商店 公〇四二二一八二二二

荒木 泰雄

東京都町田市森野一の三 森野住宅三五四
斎藤会計事務所 公二五三一六四〇四

池田 種生

千葉県市川市東管野一の一七の一三
公〇四七三三三四一〇二八〇
玉川大学教育研究所

依藤 俊治

東京都目黒区上目黒一の五五 桜庭方
東京都杉並区松の木町一一五八
公三一四〇九四

井阪 いさお

東京都杉並区永福二の一の一の二
公三二一〇四九一

植木 伍鹿

(株)海洋産業 公二七一三一一八一

植木 一夫

東京都文京区白山三の一の一三
植木紙工所 公八一八五七三

植木 格

東京都杉並区下井草四の二七の一三
公三九九一六三五二
(株)東邦化成産業 公九五三〇二二二

植木 英吉

東京都杉並区下井草四の二八の二
公三九九一七二二一
井荻駅前郵便局 公三九〇一九六六〇

梅垣 作太郎

東京都世田谷区奥沢五の三八の二一
公七二一一二二九四

恵本 みよし

東京都荒川区町屋七の一六の一

大沢 まつ子 東京都杉並区高円寺二の一三二
大木 道則 東京都練馬区東大泉町九五
〇九二四—〇二四四

岡田 一雄 東大理学部 〇八一—二二—一内線三四四六
東京都練馬区春日町四の二三の七
〇九九〇—一三四七

小川 晴通 東京都港区赤坂三の六の一八
〇五八三—一五五三

杏林堂主人

荻野 完二 東京都世田谷区玉川奥沢町二の三〇七
〇七二—一六九四

民放研究所 〇二六五—七四八一

葛谷 理俣 東京都練馬区下石神井一の三五八 山田正丈方
〇九二〇—〇二九二

早稲田大学大学院理工学研究科

斎藤 俊一 東京都板橋区板橋四の一三の一三
〇三六三—三二—一内線四二

東京都板橋区板橋四の一三の一三
〇八六六—三三二〇

酒井 明朗 東京都練馬区豊玉中二の二 中村静香方

佐藤 やす子 東京都中央区日本橋横山町六

〇辻和商店・東京支店

笹倉 良正 神奈川県平塚市大島一二六六

〇東洋ゴム・厚木工場

勢川 武彦 東京都中野区東中野二の一七の二〇
〇三六一—八六七六

〇大阪商船・三井船舶

田 淵 初雄 東京都渋谷区代々木三の一 横山きくの方

田 中 健治 東京都杉並区西田町二の三九五
〇三九二—三一一九

千種 倫幸 埼玉県浦和市太田窪三の二の二四
〇四八八—八二—一九七三三

〇長谷川工務店 〇四六三—五四五一

〇千葉県船橋市習志野台三の一の五の二〇四

土井 崇司 〇渡辺紙工業・東京支店 〇八六一—二三三一

〇〇八六一—二三三一

塚本 良子 東京都世田谷区給田町五六九

中野 正義 東京都杉並区大宮前六の三四三
〇三三三—六三八七

〇東和冶金 〇〇四八四—六一—〇〇三八

中居 篤子 東京都文京区駒込上富士前町一一

〇〇四六六—一九九二

直田 正 東京都渋谷区代々木五の五〇の一 尚志館

明治大学

中村 正之 埼玉県入間郡福岡町霞ヶ丘二の五の一三〇の二

〇渡辺紙工業

中原 美代子

東京都中央区日本橋横山町六
饅辻和商店・東京支店

永井 清司

神奈川県鎌倉市佐助一の一の一
〇四六七―二二―五二五九

西垣 秀正

東京都北多摩郡狛江町和泉二二―一
〇四八〇―二二五八

饅日本ビクター 〇二四一―七八一一

西垣 秀夫

神奈川県横浜市内南区六ッ川二の一五一の一
防衛庁

西垣 桂

東京都杉並区松の木町一一五八 井坂方
〇三一―四〇九四

西垣 正弘

東京都中野区野方二の四七の八
〇三八六―〇四九〇

西本 道則

東京都新宿区南元町二四の一 明苑寮内
明治神宮外苑

広瀬 幸太郎

東京都調布市若葉町一の三八の一四
〇三〇〇―五九三七

藤原 弘行

東京都中央区日本橋通り二の四
〇二七一一―七八五

饅藤原帯地店

藤井 朝野

東京都新宿区上落合一の二九
三生マンション五〇三

古川 悦子

東京都武蔵野市境五の二〇の二五
〇四二二―五二―一二七二

細川 宗伸

東京都品川区西大井五の一七の二
〇七四四―〇二七二

前田 和市

細川フリット工業所 〇七五一―九五三七
東京都北多摩郡狛江町和泉二二〇〇
〇四八九―八二三八

饅永愛友商事 〇五八五―〇七四〇

前田 貞夫

東京都練馬区豊玉北一の一 守矢方
淵上法律事務所 〇二〇二―五五五五

真川 薫子

東京都港区赤坂青山南町五の五
〇四〇八―四〇八六

宮城 あい

神奈川県横浜市神奈川区六角橋二の七の八
〇四五一―四八一―七六〇九

村岡 卓

東京都世田谷区玉川等々力三の一四の六
饅千代田組 〇五九一―五一一一

村上 栄宏

神奈川県横浜市瀬谷区阿久和田四四六六
阿久和団地四三四

山中 人美

東京都練馬区豊玉北六の二一 日綿住宅
〇九九一―五八一八

饅在原インフイルコ

山中 大学

東京都太田区荻中三の四の一

横田 洋子 千葉県千葉市村田町八九三の二二一

横田 悟 千葉県千葉市村田町八九三の二二一

渡辺 貴美子 東京都中野区沼袋四の一八の二〇

公三八七—三〇五三

● 永上町出身者

赤松 靖弘 山梨県甲府市古府中町塔岩五五九 千野重雄方

足立 正 川崎市宮崎四五一 すずむ荘

足立 三義 神奈川県横浜保土ヶ谷区榎太坂三九四の三

公〇四五—七四一—七八六七

(株)日本航空 公七四一—六二二一

足立 義雄 神奈川県川崎市古市場一八三一の三 土屋方

(株)ユースチン製薬 公二三—七五八四

足立 静夫 愛知県名古屋市中千種区田代町瓶杙二二の一三〇

公七八一—七〇一六

(株)大阪商船三井船舶 公五五一—九四五四

安達 恭二 東京都世田谷区池尻町五一八

公四一一—〇七二三

横浜野沢屋 公〇四五—二六一—二二二一

安達 陽一 東京都葛飾区お花茶屋三の一九の七

公六〇三—一九一五

安達 健一郎 (株)渡辺紙工業 公八八七—六七七一

東京都保谷市中町三の三の一三

公〇四二四—六三—三四四六

(株)興国企業 公九八七—一二二一

河津 節子 埼玉県川口市小谷場三一九

尚志館

東京都渋谷区代々木五の五〇の一

公四六六—一九九二

芦田 秀雄 東京都杉並区下井草四の二一の三

公三九〇—二八六六

芦田 彊介 東京都豊島区千早町二の三の六

公九五五—〇五八一

芦田 二郎 東京都立川市砂川町三三三九三の七

市営住宅三〇一号

(株)日産自動車 村山工場

公〇四二五—六一—一一一

葦田 裕子 東京都足立区上沼田町一の一〇

公八九〇—二二八一

浅田 和雄 東京都豊島区南長崎六の二五の二

公九五—一九三三

阿部 小太郎 東京都北区田端町八二

公八二二—八五二八

(例)小林製菓

阿部 美江子

東京都北区田端町八二
公八二二—八五二八

有田 毅

東京都品川区東五反田五の六の二三
公四四三—一九七五
東急ホテルチェーン 公五八一—〇三三一

有田 喜一

東京都世田谷区成城四の一の一五
公四八三—一二〇九

有田 久代

東京都世田谷区成城四の一の一五
公四八三—一二〇九

有田 征郎

東京都渋谷区幡ヶ谷三の八 矢崎方

石倉 車二

東京都台東区入谷一の四の一
公八七二—六〇二六

泉 幸夫

東京都目黒区下目黒五の二の一九
公七一—二六〇三〇

国鉄本社貨物局長

磯 畑 弘太郎

千葉県松戸市東平賀三〇九
公〇四七三—四一一六四七九

生原 富子

東京都中野区丸山町二の二二の一七

池上 亘泰

神奈川県藤沢市藤沢団地二の四〇一
公〇四六六—二四一一六二三

(例)日本鋼管 鶴見造船所

植田 勝憲

東京都世田谷区代沢二の四〇 殖民塾
公〇四五—五一—四一六六

植田 博三

東京都葛飾区白鳥三の九の一八
服部礼介方

上嶋 一晃

東京都世田谷区東玉川一の二の一九 小松荘
公七二九—六九二二

大日本印刷 市ヶ谷事業部

大木 俊治

東京都足立区梅田七の六の一七
公八八七—五三七三

岡本 憲太郎

東京都葛飾区白鳥三の九の一八
公六〇一—一六六五

(例)岡本化学工業 公六一七—三三七七

岡本 庄太郎

群馬県高崎市飯塚町飯玉一五五二の二
公〇二七三—二二三—三五七九

(例)岡本化学工業 公六〇一—一六六五

荻野 雄一郎

東京都武蔵野市吉祥寺東町三の二の一三 小西方

小野 智恵子

東京都渋谷区東四の六の一三
公四〇〇—一三九六

門山 静子

埼玉県草加市松原団地D六二号三〇六
公〇四八九—二三一—九八三九

木内鳩の家幼稚園 公九一六—〇九四〇

金子 一二 東京都足立区梅島二の二五の二二

公八八七—七七四六

側渡辺紙工業

川勝 小里 東京都小金井市本町一の六の一五

公〇四二三—八一—二〇五七

菊地 洋子 東京都北区西ヶ原一の二二の四

公九一五—〇一〇七

武蔵野音楽大学

岸田 勇 東京都越ヶ谷市東方町二三三八の六

公六六三—一四一一

木下 五郎 東京都世田谷区玉川一六二〇

小林 章乃 東京都品川区豊町四の八の二

公七八二—六九九三

小森 育郎 東京都渋谷区代々木五の五〇の一 尚志館

公四六六—一九九二

早稲田大学商学部

小山 靖憲 東京都北区志茂三の一二の一三 高野方

東京識育大学

佐々井 信太郎 神奈川県横浜市港北区太尾町三六九

公〇四五—四五一一—〇一一六

佐々井 典比古 神奈川県横浜市港北区太尾町三六九

公〇四五—四五一一—〇一六六

佐々井 一 晁 東京都国立市国立中区一六五

坂上 勝朗 東京都中野区白鷺三の五の一

公三三九—〇八二七

側ダイレクトメールサービス

公二九三—二九六一

杉岡 明美 東京都目黒区中町二の一七二

公七〇二—六四三七

正呂地 群治 東京都港区芝仲門前町二の五

東京都杉並区東荻町六一

公三九八—六一七一

田辺 信夫 東京都北区岸町二の九の二

公九〇九—一五七五

都立駒込病院 公八二八—六二五二内線二六二

谷垣 正 東京都杉並区上高井戸三の九九〇

東京都世田谷区桜丘二の八 五の一〇三

側渡辺紙工業

塚口 稔 東京都杉並区荻窪一の五〇

公三九一—四八八六

シンコー製作所 東京都出張所

塚口 一 東京都杉並区荻窪一の五〇

河合楽器製作所 東京支店

徳舛 紘逸

千葉県千葉市弁天町四の三の二六

（株）市田 公六三—一四一—

十倉 嘉之

東京都千代田区紀尾井町一

赤坂プリンスホテル二〇五号室

公二六一—三三八八

兵庫県明石鳴門架橋促進東京本部

十倉 忠司

神奈川県川崎市木月二の一六七四 第一稲荷荘

（株）日本包装

長尾 清三郎

東京都世田谷区砧六の二六の五

公四一五—三七七三

（株）日本調度機器 公五八五—〇四五四

長尾 貴美代

東京都世田谷区砧六の二六の五

長沢 康

東京都小金井市中町四の一六の一—

公〇四二三—八一—四八六九

（株）日進産業 公五四二—〇三九六

林谷 集

東京都小金井市中町一の八の二二

公〇四二三—八一—四六二二

（株）日立電子 公〇四二三—二二—三一一一

久下 梅次

東京都世田谷区弦巻町三の一二の一四

公四二九—六三六八

青果商

菱田 ふみ子

東京都目黒区自由が丘一の二一の四

公七一七—一〇六八

福井 弘

埼玉県北足立郡北本町下石戸上六二九の七

公〇四八五—四二—三七二五

（株）三喜 公六六三—九四三一

藤原 三郎

川崎市宮崎一〇三八の一

宮前平ドエリング二〇六

有田喜一事務所 公五八一—四九四三

藤平 順一郎

東京都葛飾区白鳥三の五の一二 正利荘

国学院大学

藤平 卓三

東京都練馬区下石神井一の一四二 木内方

増田 憲夫

東京都世田谷区山手町八六七

府中市立第三中学校

務川 貴世子

東京都練馬区中村町二の二五

公九九一—六八二八

村上 大憲

東京都大田区池上七の二二の一〇

公七五一—二〇三五

曹禅寺住職

森田 まさ子

東京都杉並区高円寺南三の一四の一六

公三一一—〇三三七

八尾 昌昭

東京都目黒区洗足二の六の一〇

☎七二二—一九九五
東京工業大学大学院

山下 易子 東京都世田谷区大原一の一八の九

☎四六八—〇六六六

渡辺 金三 東京都練馬区桜台二の一九

☎九九一—〇五三五

（例）渡辺紙工業 ☎八六一—二三三二

渡辺 幸子 東京都練馬区桜台二の一九

渡辺 隆男 東京都中野区沼袋四の一八の二〇

☎三八七—三〇五三

（例）二玄社 ☎二六三—六〇五一〜四

渡辺 勉 東京都武蔵野市吉祥寺東町二の三五の一八

☎〇四二—二二四九一一

渡辺 久子 東京都武蔵野市吉祥寺東寺二の三五の一八

● 美の郡出身者

最上 次郎 東京都調布市西つじヶ丘二の二五の九

☎三〇〇—五八二二

（例）沖電機工業 ☎五〇一—三一一一

石田 修三 東京都文京区千石二の四〇の二六

☎九四一—五五九〇

（例）昭和郵船 ☎二二一—八三四一

● 東京出身者

宇野 正浩 埼玉県与野市大戸八六三

☎〇四八八—三一五二九七

● 揖保郡出身者

梶浦 浩二郎 東京都新宿区柏木三の三一八

☎三六八—八〇〇七

（例）江の島鎌倉観光

☎〇四六六—二三—三三一一

● 佐用郡出身者

景山 正吾 東京都世田谷区桜一の一〇の七

（例）海外興業 ☎二一六—二七三二

● 岐阜県出身者

木下 年子 東京都武蔵野市八幡町四の二四の八

● 新潟県出身者

久保田 由作 東京都目黒区祐天寺一の二三の二

☎七三—〇六八六

● 三田市出身者

沢野 博 東京都品川区大井五の一五の一一

公七七四—四七〇三

● 西脇市出身者

笹倉 強 埼玉県北足立郡新座町片山四九四二

城北高校 公九五六—三一五七

藤本 久一 東京都練馬区桜台二の二六

公九九一—三八九〇

藤尾 ちゑ子 東京都中野区大和町四の五〇の九

公三三七—七三〇八

● 朝来郡出身者

柴田 勝太郎 東京都中野区白鷺二の五の一〇

公三三八—五五四〇

(例)三井東庄化学 公五八一—六二一一

● 多紀郡出身者

安藤 道子 東京都練馬区小竹町一の五一

公九五五—〇〇一四

畑 光 東京都練馬区旭町一の二一の四

公九三〇—四六九三

園田 寛 東京都世田谷区砧八の二六の二八

公四一六—一九六一

弁護士

● 福知山出身者

土屋 タイ 東京都練馬区東大泉二五七

公九二二—八六八〇

● 多可郡出身者

土肥 多香子 東京都大田区久が原三の八の二

公七五二—一六三〇

西原 のゑ 東京都文京区白山五の二二の二二

公九四一—五一八七

藤田 正雄 神奈川県川崎市三田一の一五の七の五〇六

日本育英会 公二六九—四二六一

藤原 岩市 東京都武蔵野市境南町三の二三の一一

公〇四二—四三—七四〇九

東部防衛協会 公二六八—三一—一

● 加西郡出身者

東後一美 東京都世田谷区赤堤二の三五の一三
公三二一—一八五〇

● 横須賀市出身者

萩原庸三 茨城県水戸市大工町二の七の一
公〇二九二—二一—三九二七

（轉）茨城レントゲン

小沢研一 東京都杉並区松ノ木町一一七四

● 大阪市出身者

東田実 東京都目黒区下目黒三の七の五
公四九二—七四八七

（轉）精巧写真製版所 公五五一—一〇一八

二宮正己 千葉県船橋市高根台町四の四の二〇
公〇四七四—六六一七六五〇

丸住製紙

● 加東郡出身者

藤原信男 東京都世田谷区代田六の二三の二
公四六八—〇九五九

● 静岡市出身者

高柳弘 千葉県松戸市常盤平団地一の三九の一〇四
佐々木硝子横川工場

● 出身地未調者

足立初枝 東京都昭島市中神一の二三五

植田博 神奈川県横浜市神奈川区白幡西町一〇〇の一八

江間時彦 東京都新宿区市ヶ谷砂土原町三の一七の一
砂土原住宅二の一〇三 公二六九—三六四〇

厚生省大臣官房企画室

北川常治郎 東京都中野区東中野二の一の一

北野博 東京都葛飾区白鳥三の九の一七

古西徳雄 東京都渋谷区代々木五の五〇の一 尚志館
公四六六—一九九二

竹内恵美子 東京都新宿区戸塚三の一

高木幸子 東京都杉並区成宗一の五四
公三九八—八六二五

田村恒俊 東京都小平市学園西町一橋寮
公〇〇〇〇—四一—一三二六

滝本庄次 東京都新宿区南町一三

中井蕉子 千葉県東葛飾郡鎌ヶ谷町初富九二八

橋本四郎 東京都世田谷区玉川等々力三の六九

公七〇一—五六八五

長谷川美世子 東京都世田谷区世田谷三の二二九五

公四一四—九二五六

藤平光章 東京都葛飾区白鳥三の五の一

公六〇二—〇二五五

福井勇蔵 東京都渋谷区神宮前四の一の二四 福寿荘

別所鎮夫 東京都杉並区成宗二の六一九

保井克巳 東京都杉並区高井戸東二の一〇の一五

公三三三—八七〇五

消息

石橋治郎八本会会長が郷里の春日町黒井小学校に二五米のプールの建設費として三百万円を寄附されたので今夏竣工、全校児童に利用されて大変喜こばれた。同町では同氏の美挙に対し感謝の意を表す頌徳碑を建立することとなり、その除幕式がさる十月十七日盛大に挙行された。

普積真幸

東京都田無市三二六 植松方
公〇四二—六一〇九〇六



関東氷上郷友会々則

(名称)

第一条 本会は関東氷上郷友会と称する。

(目的)

第二条 本会は会員相互の親睦を図り併せて郷土の発展に資することを目的とする。

(会員)

第三条 本会は氷上郡出身者及び縁故者を会員とする。

(役員)

第四条 本会に左の役員をおく。

会長	一名
副会長	若干名
常任理事	若干名
理事	若干名内二名会計担当
監事	二名
顧問	若干名

(役員の任務)

第五条 会長は本会を代表し会務を統轄する。

副会長は会長を補佐し、会長事故あるときは副会長の互選により一名が之に代る。

常任理事及理事は会務を執行する。

監事は会務及び会計を監査する。

顧問は会長の諮問に応じ本会の発展を促進する。

(役員の選出)

第六条

会長及役員は総会において選出する。
顧問は理事会の推薦により委嘱する。

(役員の任期)

第七条

役員は任期は二年とし、重任を妨げない。

(役員の報酬)

第八条

本会の役員は総て名誉職とする。

(会議)

第九条

会議は総会と理事会に分ける。

総会は毎年一回、必要に応じ臨時総会を開催する。
理事会は会長、副会長、常任理事及理事を以て構成し、必要に応じ会長が招集して開催する。

(会費)

第十条

本会の会費は年額金五〇〇円(学生は金二〇〇円)とする。別に必要に応じ理事会の決定による額を徴集することができる。

(寄附金)

第十一条

寄附金は理事会の承認により受納する。

(会計報告、会則の改正)

第十二条

本会の会計年度は毎年一月一日より同年十二月三十一日迄とし、会計報告は次年度の総会において行う。
本会則の改正は総会の議を経て決定する。

役員

(敬称略、順不同)

年度会費納入者名

(年五百円。敬称略)

顧問 西川政一、生駒篤郎、田誠、荻野定一郎、有田喜一、佐々井信太郎
会長 石橋治郎八

副会長 芦田秀雄、足立三治

監事 松山幸逸、梅垣作太郎

常任理事 横山幸三、上山顕、永井常

資、伴仲信次、村上大憲、竹村政雄、

山中一朗、荻野英夫、村上末吉、足

立正、前田和市、安達陽一、渡辺金

三、荻野武

理事 須原清、高見嘉都司、小谷正雄、

田辺輝一郎、小林武治、野村利吉、

波多洋三、田中健治、広瀬幸太郎、

磯畑弘太郎、林谷集

▲昭和四十四年度分(十一月九日より受付迄)

有田喜一、芦田秀雄、浅田和雄、足立誠一、

足立正、安達陽一、安藤秀夫、生駒篤郎、荻

野定一郎、荻野演一、荻野武、小川晴通、金

子一二、葛谷理俊、久下梅次、常岡幹彦、前

田和市、前田貞夫、横山幸三、渡辺勉、渡辺

金三、渡辺幸子、村上大憲、村上豊、上田要、

柿原清、江間時彦、田辺善人、磯畑弘太郎、

高見安亮、野村利吉、野村千里、小林武治、

足立博、鴻谷喜代治、足立士朗、芦田徹郎、

秋山一男、永井彰一郎、竹林すま子、久安敏

夫、田誠、岸田勇、安達恭二、須原清、上田

正巳、小寺確郎、野村虎男、高桑良弥、佐々

井信太郎、上山顕、婦木一男、足立一郎、足

立石蔵、恵木みよし、横田悟、余田八郎、森

田まさ子、小林茂、河津助治、荻野英夫、足立治、篤川てる代、谷垣博、宮部宏、高見正夫、千種倫幸、有田毅、小中克己、林谷集、植木一夫、吉住重造、松山幸逸、梶浦浩二郎、安田功、安達健一郎、高見幸男、志村勝郎、古林すみ子、音無太美子、松本金吉、西垣秀正、笠島富美、柿原庸、西川政一、小谷寛治、小谷正己、永井輝江、畑秀夫、高見嘉都司、永井常資、大西俊治、木村つた江、細見穆史、石橋治郎八、足立義雄、伴仲信次

▲昭和四十五年度分

小林武治、婦木一男、足立治、生駒篤郎

▲昭和四十六年度分

生駒篤郎

寄附金納入者名(敬称略)

(参万円) 石橋治郎八、(老万円) 渡辺泰造

第三号予告

次号第三号「山さる」は昭和四十六年

十一月発行の予定。

会員各位より消息その他原稿をどしどしお寄せ下さい。

編集部

● 第一号発刊から丸四年、やっと第二号が出せました。予定より大変おくれて恐縮しております。内容も不満だらけですが、号を追って充実したものにしたいと念じております。これからは年一回は出したいと思えます。皆さんの御協力をお願いします。

● 表紙のカットに常岡文亀画伯の色紙を頂き第一号の石橋会長の筆になる「山ざる」に配しました。

● 会の事務所が、春日建設(株)（社長、伴仲信次氏春日町）に置かれ第一回編集会議（二月十日）よりフルに活用させて頂きました。

● 名簿の充実に御協力下さい。会員の皆様の住所変更等の通知は必ず会の事務所へもお寄せ下さい。貴方の御存知の郷友で名簿に載っていない方を御知らせ下さい。

（足立正記）

山 ざ る 第 二 号

昭和45年11月15日 印刷

昭和45年11月25日 発行

関 東 氷 上 郷 友 会

事務所 東京都千代田区飯田橋2丁目9番3号
春日建設株式会社内
TEL東京03(264)4011番(代)
振替貯金番号 横浜 6985番

衆議院議員

有田 喜一

氷上郡氷上町谷村

芦田 秀雄

東京都杉並区下井草四丁目二一三
電話(390)二八六六番

荻野 定一郎

事務所

東京都千代田区丸ノ内二ノ二

(丸ビル六階六二五区)

電話東京(21)七〇六一〜二番

自宅

鎌倉市御財町十七〜十四

電話〇四六七―二二一六七四二番

日本ビクター株式会社
専務取締役
西垣 秀正

東京都中央区日本橋本町四丁目一番地ノ一
電話東京(〇三)(24)七八一一番(大代表)

日本ホテル株式会社

(東京ステーションホテル経営)

取締役社長

田

誠

東京都千代田区丸の内・東京駅二階
東京ステーションホテル

電話東京(21)代表
三五一一番

日本空港ビルディング株式会社
常務取締役
高見 正夫

東京都大田区羽田空港二一四一三
電話東京(74)五一一一番(大代表)

東部及東京都防衛協会理事長
社団法人国民外交協会常務理事
日本郷友連盟常務理事

藤原岩市

〒180 自宅 東京都武蔵野市境南町三丁目二三―一
電話(〇三三)四三―七四〇九番
〒107 東京事務所 港区赤坂六丁目二番四号水戸幸ビル3A
電話(0303)582582―一五八八三
内外情勢研究会内直通(0303)582582―一三八三五

日商岩井株式会社

取締役会長

西川政一

本社 東京都中央区日本橋江戸橋一丁目一〇
電話(273)五一―一一番
大阪市東区今橋三 電(202)一二〇一番

東洋信託銀行

副社長 足立博

東京都中央区日本橋通一ノ一
電話東京(272)七三一一番

安宅産業株式会社 東京支社

取締役 高見孝男
審査部長

東京都千代田区大手町一丁目(大手町ビル)
〒一〇〇 東京中央郵便局私書箱一五六三号
電話ダイヤルイン東京(03)217―二〇二〇番

本徳証券株式会社

常務取締役 畑秀夫
経理部長

東京都中央区日本橋兜町一丁目八番地
電話東京(666)代表一四八―一四八九番

株式会社 スズヤ洋装生地店

代表者 村上豊

営業所

西店 東京都大田区蒲田駅前西口大通り
電話蒲田(731)三八九四番
東店 東京都大田区蒲田駅前東口大通り
電話蒲田(731)四七九八番
自宅 東京都大田区蒲田五丁目十八番
電話蒲田(731)四七九八番

植 木 格

自宅 東京都杉並区下井草四―二七―一三
TEL(999)六三二五番
会社 東邦化成産業株式会社
TEL(九五三)〇二二二番

中央建材工業株式会社

取締役会長

荻 野 英 夫

本社 東京都中央区銀座七丁目十番五号
電話(〇三)五七一―五二九番(代表)
名古屋市中区南久屋町三丁目十二番地
電話(〇二五)二五一―三五四一番(代表)

ノーブル印・スター印製造発売元
事務服・制服・作業服・繊維産業資材
園児服・園児用品・金属遊具・形象遊具
ノーブルスター株式会社

代表取締役

吉 住 重 造

本社 東京都千代田区神田須田町一ノ十一
電話〇三(二五三)三四九三(代表)ノ五番
自宅 東京都千代田区外神田一ノ十六ノ一
電話(二五三)一〇六〇番

曹 禪 寺 住 職

村 上 大 憲

東京都大田区池上七丁目二二番十号
電話〇三―七五一―二〇三五番

横山産業株式会社

取締役社長

横 山 幸 三

東京都江戸川区中央二―三四―六
電話(六五四)四三三四ノ六番

高見産婦人科

医 学 博 士 高 見 嘉 都 司

東京都板橋区熊野町四〇番地
電話(九五六)〇六〇〇番

植木紙工所

代表者 植木 一夫

東京都文京区白山三丁目一ノ十三
TEL (八一一) 八五七三

竹林 すま子

東京都目黒区碑文谷四の一六の二二
電話 (七一二) 五七〇〇

安達 恭二

東京都世田谷区池尻町五一八
電話 (四一一) 〇七二三

荻野 武

横浜市磯子区汐見台三丁目四番地二三九号
電話 横浜 〇四五 (761) 九〇五〇番

須原 清

東京都中野区南台五の三〇の六
電話 (三八一) 一六二一

余田 八郎

神奈川県藤沢市辻堂新町二の一二の二三

河津助治

東京都新宿区矢来町二
（傍）近藤写真製版所
電話（二六〇）六二八一

松山幸逸

東京都豊島区西池袋四の八の八
電話（九七一）五七四三

田辺輝一郎

静岡県小田原市十字四の一〇の一六の六
電話（〇四六五一二二）三九八一

千種倫幸

埼玉県浦和市太田窪三の二の二四
電話（〇四八八—八二）九七三三

生駒篤郎

東京都保谷市東町五の一の一四
電話（〇四二四—六二）六二六七

足立正

川崎市宮崎四五一
すすむ荘

木村つた江

東京都調布市つつじヶ丘二の三九の五
電話（三〇〇）六八九五

平和憲法の素顔・昭和元禄の実体

断絶の日本

佐々木盛雄 著

四六判・二六〇頁

定価四二〇円

送料七〇円

〈本書の主張〉

☆占領軍の押付け憲法が日本の心を破壊した。
偏向マスコミ、左翼の擬装・陰謀をどうするか
国民の無関心が恐るべき革命を助長する
☆狂乱の巷 去勢化された日本人
マイホーム、レジャー、エレキ、ミニスカート、長髪族：
……ああ、日本はどこへ行こうとしているのだろうか。
☆誰が緑なす祖国を愛し、祖国を守るのか
勇断なき歴代内閣の怠慢を何とする
今こそ新しい保守「新党」を作らねば国が亡ぶ

〈著者の言葉〉

マッカーサーによる占領憲法こそ、日本国民をして遂に亡国の民と化さしめた最大の禍根である……日夜身辺に見聞きするものすべてが、日本民族の悲しく、醜い狂乱の姿ばかりである。これらは断じて変貌ではなく、民族の魂の断絶である。しかし私は祖国日本をかぎりなく愛し、その存続と発展を心から熱愛する。

発行所 日本教文社

東京都港区赤坂九丁目六番四四号
電話東京(03)401-9111(代)
振替東京五五五一九番

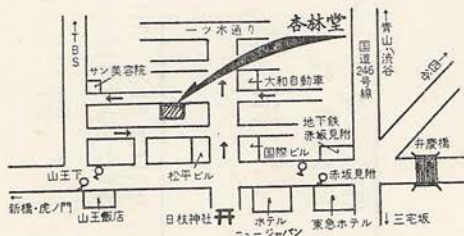
古典医学・脉診研究

鍼専門治療 杏林堂 小川晴通

東京都港区赤坂3-6-18

TEL 赤坂 583-1553

(診療時間の受付は前以て電話にてお約束します)



電子器機部品専門商社

株式会社

三

誠

取締役社長 足立誠一

東京都千代田区外神田 3-2-13

電話 (255) 1 2 5 1 (代)

綜合建設業

東京都知事登録第 3 号

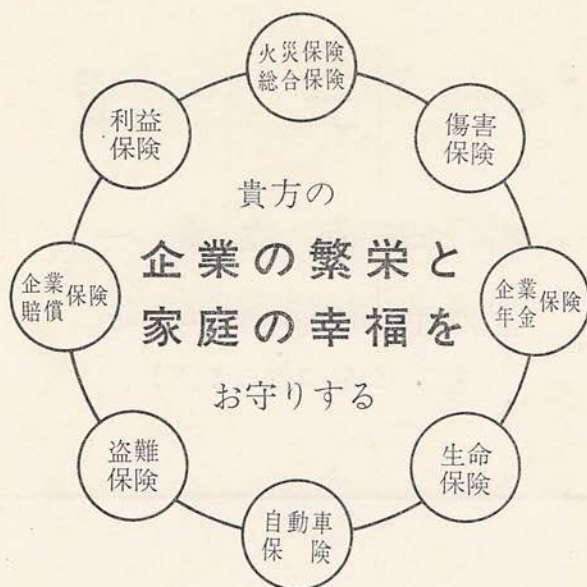
春日建設株式会社

代表取締役 伴伸信次

東京都千代田区飯田橋二丁目九番三号

電話東京 (264) 4 0 1 1 代表

万一の災害から



（保険の御用命に限らず広告について
の御意見を頂いた場合 粗品呈上）

あらゆる保険について御用命御相談下さい

AIU・大正海上 同和火災 総合代理店
日動火災 日産火災

永愛友

商 事
K K

代表取締役 前田 和市（山南町出身）

▽ 107 東京都港区赤坂3-3赤坂千代田ビルAIU内

電 話（585） 0740（代表）

桂建築総合研究所

ビル建築の設計・監理

事務所建築・賃貸ビル・商業ビル・都市再開発にともなう新築ビル・アパート・マンション・住宅…等の新築ビル
経済性を尊重した優美な設計

株式会社 桂 工 務 店

店舗の内装設計・施工

住宅の新築・改造・増設施工・都市美観工事にともなう街路・オーニング・看板・電飾看板等の設計・施工
システム化された近代経営

株式会社 商店建築社

商業建築・建築関係図書出版・月刊誌
商店建築発行・名作シリーズ・単行本
写真シリーズ…等多数発行

春日町中山出身 村 上 末 吉

住所 東京都中野区東中野1-2-5 TEL 369-1834

4マルチアンプ+^{プラス}4ソース方式採用、マルチの未来派!!
このステレオを手に入れた瞬間

音楽との対話が始まる



SEA87M (SSL-87MS型) MCSS採用

現金正価 ￥159,900

ビクター・ローンによるご購入例 (銀行ローン24回均等払い)
お申込金 ￥23,900 お支払い額 第1回 ￥7,420 第2回以降 ￥6,300 × 23回
ステレオ・テーブデッキ TD-694型 ￥39,800 (別売り)

ビクターSEAステレオ MCSSシリーズの主な姉妹機種

SEA66M (SSL-66MS型) 現金正価 ￥139,900

SEA57M (SSL-57MS型) 現金正価 ￥127,900

SEA55M (SSL-55MS型) 現金正価 ￥114,500

スピーカーから出てくる「音」と、あなたのえがく
「音」のイメージとのズレ。これを理想的に1本
にあわせるのがSEA装置です。耳で聴こえる範
囲の音を5つに分け、それぞれのツマミを上下さ
せるだけで、音場を正確に微妙に補正できます。
複雑な楽器の音をあなたの耳に忠実に伝えるSEA
A装置はビクターだけのものです。

SEA (超音質調整装置)

どんな部屋でも理想の音を再現する

音域に広げたアンプの使用。マルチアンプ方式を
いちだんと未来化した新方式MCSS。圧倒的な
臨場感、原音のもつ迫力、超立体音響の生み出す
4次元音の世界です。原音探究40余年の成果を心
ゆくまで味わってください。

4マルチアンプ+4ソース方式
MCSS (マルチ・チャンネル・ソースシステム)



お求めは、わずかなお申込金
ですぐ楽しめるビクター・ロ
ーンをご利用ください。くわ
しくは、ビクター・ローン・
ストアでご相談ください。

ビクターステレオ

メモ欄

●この頁と次の頁は，メモ欄にお使い下さい。

おしゃれのポイントを

創るグリーボン

高級婦人服製造卸

つるや産業株式会社

取締役社長 足 立 三 治

本 社 川 崎 市 新 丸 子 7 0 1 番 地

電 話 (0 4 4) 7 2 局 6 3 7 1 (代 表)

東京店 東京都品川区西五反田 7—22—17

東京卸売センター12階

電 話 (03) 4 9 4 — 3 2 8 5 ~ 8 番

創 業 昭 和 9 年

設 立 昭 和 2 1 年

資 本 金 3 千 万 円

従 業 員 1 5 0 名

祝 第二号発刊

石橋生糸株式会社

社長 石橋治郎八

本社	横浜市中区山下町1番地	電(045)641-7161~9
支店	神戸市生田区京町79番地	電(078)32-1484~6
工場	沼津市高島町6丁目	電(0559)21-1484~6
	千葉県我孫子市本町	電(0471)82-1351~3
	静岡市曲金町2丁目	電(0542)85-2670
営業所	東京都中央区日本橋江戸橋 前橋・相模原	電(03)273-3866~9